

令和5年度（令和4年度対象）

生駒市教育委員会活動点検評価報告書

令和5年8月

生駒市教育委員会

生駒市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の 状況に関する点検・評価について

生駒市教育委員会では、市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱である「生駒市教育大綱」が平成28年6月に策定されたことに伴い、本大綱で示された基本方針に基づく具体的な事業を掲げたアクションプランを平成28年8月に策定し、社会情勢の変化や点検・評価の結果を踏まえ、毎年度アクションプランを見直すこととしています。

そして、本アクションプランを基に、生駒市教育大綱の基本理念である「『遊ぼう』『学ぼう』『生きよう』みんなでいこまを楽しもう」の実現に向けて、各施策及び事業に取り組んでまいりました。

大綱については、社会情勢の変化やアクションプランでの取組実績・成果等を踏まえ、令和2年6月には第2次生駒市教育大綱が策定され、今回は、第2次生駒市教育大綱に基づく施策及び事業に関して、3回目の点検・評価の実施となります。

この度、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づく、生駒市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について、令和4年度の実績を、アクションプランに掲げられた施策及び事業を中心に点検・評価を行いましたので、同法第26条の規定により報告します。

令和5年8月28日

生駒市教育委員会

教育長 原 井 葉 子

目 次

令和5年度（令和4年度対象）活動点検評価報告書の作成にあたって	1
1 報告書の位置付け	1
2 国等の動向	1
3 点検評価の概要	2
4 生駒市教育委員会活動点検評価委員の意見	6
教育委員会の活動状況	7
教育大綱に基づく施策・事業	10
基本方針1 子育てを楽しめる地域づくり	10
1 保護者支援の場・コミュニティづくり	10
2 「遊び」を「学び」につなぐ就学前教育の充実	16
基本方針2 21世紀を生き抜くしなやかでたくましい人づくり	19
1 「地域に開かれ、地域とともにある学校づくり」の推進	19
2 ICT機器を活用した新たな学びの創出と時代に応じた環境整備	22
3 多様性を認める柔軟性とやさしい心の育成	27
4 主体的に学び、挑戦を続けるたくましい心の育成	31
5 「楽しい授業づくり」のための教職員の育成と環境整備	35
基本方針3 すべてのライフステージで、楽しみながら学び、地域とつながる機会づくり	37
1 すべての人が楽しく、安心して成長し、活躍できる機会の創出	37
2 人と本、人と人をつなぎ、まちづくりの拠点となる可能性に満ちた図書館づくり	41
3 歴史・伝統文化・芸術を通じた、より豊かなまちの実現	45
4 「健康」「生きがい」「仲間」「まち」をつくるスポーツの発展	50
点検及び評価に関する意見	56

令和5年度（令和4年度対象）活動点検評価報告書の作成にあたって

1 報告書の位置付け

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「法」という。）第26条第1項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表するものです。

2 国等の動向

国では、改正法が平成27年4月に施行され、教育委員会制度が大きく変わりました。

また、学習指導要領が平成28年度末に改訂され、幼稚園は平成30年度、小学校は令和2年度、中学校は令和3年度から新たな学習指導要領に基づく教育課程や指導が実施され、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための取組や、小学校高学年での「外国語科」の導入など、教育を取り巻く環境が大きく変わりました。

あわせて、令和2年度には新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、GIGAスクール構想が前倒しされ、情報端末が児童生徒1人に1台配備されました。また、中央教育審議会では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を柱とした「令和の日本型学校教育」の実現がまとめられています。

生駒市では、平成28年6月に「生駒市教育大綱」を策定し、基本理念である「『遊ぼう』『学ぼう』『生きよう』みんなでいこまを楽しもう」の実現に向けた具体的な取組を「アクションプラン」として掲げ、毎年度PDCAサイクルに基づく効果的な進行管理を行うことにより、より実効的な施策・事業を推進しています。

なお、本大綱は推進期間が4年間とされていたことから、社会情勢の変化やアクションプランにおける実績や成果等を踏まえて、令和2年6月に第2次生駒市教育大綱を策定し、具体的な取組を進めています。

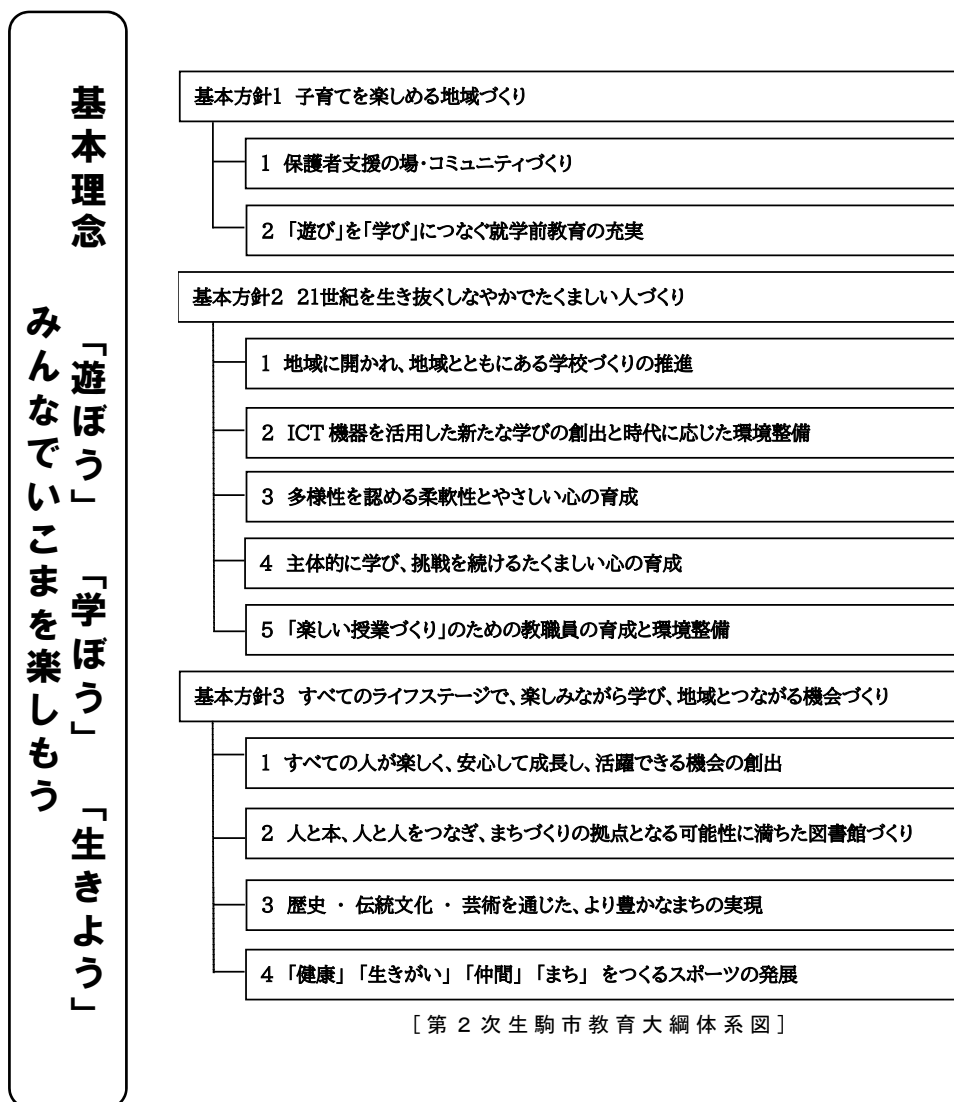
3 点検評価の概要

(1) 点検評価の対象

令和4年度は、教育委員会が行っている活動を大きく下記の2つに分類しそれらを構成する各施策・事業について、点検評価を行います。

①教育委員会の活動状況

②第2次生駒市教育大綱に基づく施策・事業



(2) 点検評価の方法

各事業の取組の実績を踏まえ、達成状況を4段階の評価基準をもって評価します。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

評価にあたっては、アクションプラン掲載事業については目標に対する達成度を評価するとともに、当該事業等の実施によってどのような効果が得られたのかを明確にして評価することを原則としていますが、令和4年度は、令和3年度に続いて、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の中止や変更を行っているものもあることから、取組内容を重視した評価を行うこととしています。

未達成の事業や取組が十分でない事業がある場合は、その要因と理由を明確にし、次年度以降の活動や事業等の実施に活かしていくこととします。

(3) 評価の総括

教育委員会の活動状況

事業数7 S:0 A:7 B:0 C:0

事業・取組名称	評価
教育委員会会議の開催	A
学校訪問、各施設視察、研究発表会・学校行事の参観	A
その他市教育委員会主催事業等への参加	A
教育委員としての資質・能力の向上	A
各種教育機関との連携	A
総合教育会議の開催（会議は市長が主催）	A
教育大綱アクションプランの策定	A

教育大綱に基づく施策・事業

総事業数83 S:6 A:73 B:4 C:0

基本方針1 子育てを楽しめる地域づくり

事業数14 S:0 A:14 B:0 C:0

事業・取組名称	評価
子ども家庭総合支援拠点の充実	A
地域で支え合う子育ての推進	A
男性の育児を促す取組の推進	A
待機児童解消に向けた取組の推進	A
地域子育て支援拠点事業	A
学童保育の充実	A
家庭・学校・地域が連携した家庭教育の支援	A
幼児期の教育と小学校教育の育ちをつなぐ保幼小接続事業	A
保護者・地域と連携した特色ある幼稚園運営の取組	A
公立幼稚園のあり方に関する検討事業	A
市立幼稚園における預かり保育の実施	A
生駒幼稚園こども園移行事業	A
特別支援教育の充実	A
幼稚園・保育所教員研修の実施	A

基本方針2 21世紀を生き抜くしなやかでたくましい人づくり

事業数39 S:3 A:33 B:3 C:0

事業・取組名称	評価
コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の推進	A
積極的な情報公開と学校評価の実施	A
学校創造推進事業	A
安全教育の推進	A
スクールボランティアプログラム・学びのサポーター派遣事業	A
放課後子ども教室の運営	A
いこま教育フォーラムの実施	S
GIGA スクール構想をはじめとした令和の日本型教育の実証事業	A
ICTを活用した教育の推進	A
ICT活用教育リーダー育成研修の実施	A
プログラミング教育の推進	A
ICT活用教育支援事業	A
小・中学校のあり方検討事業	A
中学校トイレ改修事業	A

学校施設の計画的な大規模改修事業	B
学校給食センター整備事業	B
生駒南小学校・中学校老朽化対策事業	A
自殺対策推進事業	A
I C T機器を安全に活用するための情報モラル教育の推進	A
いじめ防止等の施策推進	A
特別支援教育の充実	A
小学生を対象とした適応指導教室の開設	A
特別支援教育支援員の配置	A
スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールアドバイザーズの活用	A
教育相談の実施	A
ことばの教室・通級指導教室エルの運営	A
適応指導教室の運営	A
読書活動・学校図書館の充実	A
社会に開かれた学校教育推進事業	S
部活動支援事業	A
生駒こどもチャレンジ補助事業	A
チャレンジ！やさしくたくましいこまっ子キャンプ	A
小学校1年生30人程度学級の実施	A
伝え合う力育成事業	A
奈良先端科学技術大学院大学と連携した授業の実施	A
教職員がいいききと子どもと向き合う時間創造プログラムの推進	B
グローバル時代に対応した外国語教育の推進	A
問題発見能力や他者と協働するコミュニケーション能力の育成	A
講師不足対策	S

基本方針3 すべてのライフステージで、楽しみながら学び、地域とつながる機会づくり

事業数30 S:3 A:26 B:1 C:0

事業・取組名称	評価
幅広い世代への学ぶ機会の提供と地域の人材活用	A
市民同士の交流や地域参画を促す学びの場の展開	S
高齢者の学びへの意欲向上と、学びを「行動」につなげる仕組みづくり	A
困難を抱える子ども・若者に対する支援の充実	A
多様性を認め合う場の提供	B
生涯学習施設の設備の充実	A
生涯学習施設の管理運営	A
体育施設整備事業	A

子ども読書活動の充実	A
「人を通して人を知る」「本を通して人を知る」をキャッチフレーズとするビブリオバトル全国大会の開催	A
市民との連携や「協創」のもと、まちづくりの拠点となる図書館づくり	A
図書館読書バリアフリー事業	A
図書館の運営と充実	A
子ども読書活動の充実	A
読書活動ボランティアの育成と協働による事業推進	A
『生駒市史』編さん事業	A
歴史・伝統文化の学びの場の提供と情報発信	A
市民との「協創」による「音楽のまち生駒」の発信	S
生駒ふるさとミュージアム管理運営	A
文化芸術事業	A
文化財保護と歴史文化の普及	A
市史編さん収集資料活用事業「いこま歴史アーカイブ」	A
総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	A
みんなのスポーツ推進事業	S
トップアスリート連携事業	A
健康ウォーキング等の推進	A
子ども体力向上事業の実施	A
スポーツ、レクリエーション活動	A
社会体育施設の管理運営	A
スポーツ推進審議会の開催、スポーツ推進委員の運営	A

4 生駒市教育委員会活動点検評価委員の意見

点検及び評価にあたっては、法第26条第2項の規定により、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するため、生駒市教育委員会活動点検評価委員2名を委嘱し、教育委員会による自己評価に対し、同委員から意見が提出されています。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
 A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
 B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
 C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

教育委員会の活動状況

事業・取組名称	活動内容	実績・成果	評価
教育委員会会議の開催	定例会及び臨時会を開催し、議案及び報告案件を審議する。教育委員会が所管する予算、規則の制定改廃、人事案件等について議決、承認を行う。	【会議開催回数】 定例会：12回 臨時会：2回 【審議件数】 議案：30件 報告案件：19件	A 直接会議の場合に参加ができない場合でもオンラインを活用することにより会議に参加できる環境が整えられていることで、委員が直接議論を行う機会を創出でき、規則の制定改廃や学校での事案等の各案件について、十分な審議の上、遅滞なく議決、承認を行った。
学校訪問、各施設視察、研究発表会・学校行事の参観	定期学校訪問を実施。30校園を対象に訪問し、授業の参観及び学校運営全般にわたる視察を行った。	市内30校園で学校訪問を実施し、学校経営、教育課程の運用、学習指導など学校教育全般にわたり、学校の実態に即して指導助言するとともに、各学校が主体的に、より充実した教育活動や特色ある学校経営が推進できるよう支援した。また、一人一台端末の導入に伴い活用が進むように助言した。	A 新型コロナウイルス感染症に伴い、各校が臨時休校していた影響に鑑み、子どもたちの学びの保障の観点から、指導助言を行うとともに、改めて目指すべき本市の教育の方向性を確認し、推進する機会を得ることができた。特に ICT 機器の効果的利用に関して点検と助言を行った。
その他市教育委員会主催事業等への参加	成人式、市民体育大会及び市民体育祭、生駒市人権教育推進協議会総会及び研究大会等へ参加する。	開催された教育委員会主催事業に参加した。 (二十歳のつどい、市民体育大会、生駒市人権教育推進協議会総会及び研究大会)	A 市教育委員会等が主催する行事に参加し、市教育行政について理解を深めることができた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
教育委員としての資質・能力の向上	全国及び県で開催される研修会等へ参加し、教育委員としての資質・能力の向上を図る。	適宜開催された次の研修会に参加し、教育委員としての資質・能力の向上に努めた。 (市町村教育委員会研究協議会、近畿市町村教育委員会研修大会、奈良県市町村教育委員会連合会研修大会)	対面のほか、オンラインで開催された研修会にも積極的に参加することで、教育委員各個人において研鑽を積み、能力向上に努めた。 A
各種教育機関との連携	教育委員会が設置する附属機関や教育関係機関・団体等の活用・連携により、多種多様な教育課題に的確に対応する。	附属機関の活用や教育関係団体との連携を図った。 (社会教育委員、スポーツ推進審議会、子ども・子育て会議、市史編さん委員会)	例年同様、多種多様な教育課題に附属機関の活用などの的確な対応を行うとともに、教育関係機関との積極的な連携に努めることができた。 A
総合教育会議の開催(会議は市長が主催)	ICT教育や小中一貫教育をはじめとする教育環境の充実について、市長と協議を行う。	2回の総合教育会議において「生駒市立生駒南小・中学校の今後の方向性について」、「第3次生駒市教育大綱の策定について」を協議した。	「生駒市立小・中学校のあり方に関する基本的な考え方」や、「地域協議会からの意見書」を踏まえ「生駒市立小・中学校の再編等に係る方向性」を受け、「生駒市立生駒南小・中学校の今後の方向性について」を協議した。協議に当たっては、地域での会議内容や意見についても共有して実施した。また、令和6年6月に第2次生駒市教育大綱の計画期間が満了することを踏まえ、第3次教育大綱策定に向けたスケジュールについて、国の動きも考慮しながら協議した。 A

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
教育大綱アクションプランの策定	大綱の基本理念及び基本方針を実現するため、具体的な施策・事業を掲げたアクションプランを策定し、PDCAサイクルに基づく実効性のある取組を推進する。	令和2年6月に策定された第2次生駒市教育大綱に基づき、令和4年度アクションプランを策定した。	A 生駒市教育大綱に基づくアクションプランを策定し、PDCAサイクルに基づく施策・事業の推進を行うことができ、事業の重点化、実効性担保などを図る一助となっている。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

第2次生駒市教育大綱に基づく、新たな事業や施策を展開していくとともに、アクションプランの様式改善を含めた事業等の検証を常に行い、次年度以降の取組に活かしていく。

また、総合教育会議での市長との協議も踏まえつつ、教育委員会としての市のめざす教育のさらなる発展に向けた方向性を見出していく。

【評価基準】
S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

教育大綱に基づく施策・事業

基本方針 1 子育てを楽しめる地域づくり

1 保護者支援の場・コミュニティづくり

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和4年度の取組/設定目標	
子ども家庭 総合支援拠点の充実	子育て家庭と妊産婦等を支援するため、関係機関と連携し支援することにより、虐待の未然防止・早期発見に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点の相談体制の充実 ・生駒市要保護児童対策地域協議会の運営(個別ケース検討会議:343回/実務者会議:24回/代表者会議:1回) ・拠点に必要な専門職の配置及び相談体制の充実 ・生駒市要保護児童対策地域協議会の運営 	<p>A</p> <p>拠点担当者に必要な研修を受講させ、知識・対応力の向上により、相談体制を充実させた。また、虐待相談などに対応する際、その家庭に関係する機関で集まって情報共有し、その家庭の状況に沿った支援計画を立て、それぞれの機関が役割分担をして必要な支援を家庭に入れていくことで、子育て家庭と妊産婦等への支援を行った。</p>

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和4年度の取組/設定目標	
地域で支え合う子育ての推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ファミリー・サポート事業の周知を図り、子育てを地域で支え合うためのコミュニティを構築する。 ・子育てシェアを広げるための地域交流会の開催、及び地元ママサポーターや会員による子育てシェアの拡大をサポートする。 	<p>【ファミリーサポート】</p> <p>依頼会員：647人 援助会員：160人 両方会員：42人 合計849人 活動件数2,388件</p> <p>【子育てシェア】</p> <p>シェアコンシェルジュ（ママサポーター）：7人 登録者数：366人 ・交流会：2回</p> <p>・ファミリー・サポート事業の周知 ・子育てシェアの交流会の開催、及び事業周知のサポート</p>	<p>【ファミリーサポート】産前産後の継続増進が加え、活動回数が増加した。また自治会掲示板の活用等周知啓発に努めた結果、会員が増加した。</p> <p>A 【子育てシェア】感染状況に合わせオンライン中心に交流会を実施したほか、周知の促進により、シェアコンシェルジュが7人となった。</p>
男性の育児を促す取組の推進	<p>父親が育児を自らのことと捉えられるよう、父親の子育てを後押しする事業を実施する。</p>	<p>【開催回数】</p> <p>・パパセミナー 3期各4回計12回参加組数：21組 （対象：第1子と父母） ・夫婦で聞く前向き子育てセミナー1回 参加組数：5組 ・Papa'sみっきランド 3回×3日間計9回 参加総数109人</p> <p>・パパセミナー/3期 ・夫婦で聞く前向き子育てセミナー/1回 ・Papa'sみっきランドの開催</p>	<p>【パパセミナー】3期開催した。講座修了後も参加者同士の交流が継続する様子が見られるなど、家族ぐるみの繋がりが見られた。</p> <p>【夫婦で聞く前向き子育てセミナー】「子どもの育て方に疑問があったが、分かりやすく実践してみようと思えた」、などの前向きな感想がみられた。</p> <p>【Papa'sみっきランド】段ボール遊具を用い、父親と子どもが自由に過ごせる遊び場を提供した。</p>

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		令和4年度の取組/設定目標		
待機児童解消に向けた取組の推進	令和6年度までの待機児童解消に向け、小規模保育所の新設、保育人材確保、保育コンシェルジュ相談事業を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模保育事業者の公募を実施し、令和5年4月から「サンライズキッズ保育園西松ヶ丘園」を開園した。 ・保育コンシェルジュによる出前相談会を実施した。 /令和5年4月1日入所の待機児童数0人(新カウント方式) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模保育所開園により、19人の定員増となった。 ・保育人材確保事業により、公私立園合わせて令和4年度は6人の保育士を雇用することができた。 ・公立園の保育補助員を令和4年度は3人雇用することができた。 ・コロナ禍でも工夫することにより相談件数が630件で、サポート体制が浸透し、保育園選びに活用いただいている。 	A
		<ul style="list-style-type: none"> ・小規模保育所の公募等、地域型保育事業の推進 ・保育士確保事業の実施 /待機児童数：63人(旧カウント方式) ※R2.10月から保育所等利用の実質待機児童数のカウント方法を見直した。(新カウント方式) 6園以上を希望して入所が決まらなかった児童数(旧カウント方式) 2園以上を希望して入所が決まらなかった児童数 		

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		令和4年度の取組/設定目標		
地域子育て 支援拠点事業	乳幼児及びその保護者の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う。	利用人数：23,866人	年間を通して、市内10か所で事業実施/利用人数：47,571人	A 人数制限等感染拡大防止に努めながら、年間を通して開所した。コロナ感染、「孤育て」に対するストレス、夫の在宅ワークへの配慮により、外出を余儀なくされたりと、様々な不安を口にする保護者も見受けられ、拠点において、利用者寄り添った対応に努めた。
学童保育の 充実	増加する学童保育需要に対応するため、生駒市学童保育運営協議会が運営する学童保育所の環境整備、指導員確保などによる体制づくりに取り組むとともに、新たなニーズに応えるため、民間事業者による学童保育事業を促進する。	民間事業者の公募を実施し、令和5年4月「生駒台放課後児童クラブ」が開設した。	・民間事業者参入を図るための公募 ・運営協議会に対する支援 ・民間事業者に対する支援 /民間学童保育所数：7か所	A ・学童児の受入強化と分散、また、民間事業者の特性を活かした運営が図れ、放課後の子どもたちの過ごし方について、多様化するニーズに対応した学童保育を提供することができた。 ・運営協議会及び民間学童保育所に対し、助成金を交付した。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和4年度の取組/設定目標	
家庭・学校・ 地域が連携 した家庭教 育の支援	子育ての不安解消や 地域でのつながりづ くりなどを目的に、 地域で子育て支援等 に関わる市民との協 働により立ち上げた 生駒市家庭教育支援 チーム「たけのこ」を 中心に、学校園など との連携のもと親子 や保護者を対象とし た交流事業や家庭教 育に関する情報発信 などに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・「たけのこ ふれ愛」 イベントの開催 (1回、119人参加) ・「たけのこ通信」の 発行(1回) 	A コロナ禍で新たな 取組を進めること が難しい状況の 中、3年ぶりに対面 での交流事業を開 催することができ、 地域住民と協働し ながら親子と地域 とのつながりづく りの機会を創出で きた。 個別相談について は、具体的な実施 方法や内容につい て今後さらに検討 が必要である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援チ ーム「たけのこ」による 取組の実施 ・取組の情報発信 ・チームメンバーの 研修 ・学校園への訪問 ・個別相談の試行 	

【評価による課題】

小規模保育所の新設、保育士の就労促進のための事業を行うとともに、保育コンシェルジュによる相談業務を充実させ、入所児童数の増加に取り組んだ結果、令和5年4月1日入所においては待機児童数0人となった。
 なお、3歳児を受け入れる連携園の確保や定員維持のための保育士確保が難しい状況は続いている。
 民間学童開設には、場所の確保が課題である。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

令和4年度に小規模保育事業に選定された事業者が、令和5年4月1日から運営を開始したため、19人の定員増になった。待機児童解消に向け、今後も継続して小規模保育所及び保育所等の分園の新設や保育人材の確保に取り組む。
 令和3年度に民間学童保育所に選定された事業者が、令和4年4月1日から運営を開始した。今後も継続して、学童保育の多様性を確保するため保護者ニーズや地域性等を把握し、民間学童保育所の開設に取り組む。

【評価基準】
S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

< 参考データ >

生駒市学童保育運営協議会が運営する学童施設の在籍児童数

(令和4.10.1時点) (単位:人)

小学校名	学童名	児童数	小学校名	学童名	児童数
生駒北小	生駒北学童	25	桜ヶ丘小	桜ヶ丘1学童	57
鹿ノ台小	鹿ノ台1学童	78		桜ヶ丘2学童	56
	鹿ノ台2学童	71		桜ヶ丘3学童	52
真弓小	真弓1学童	61	生駒小	生駒1学童	60
	真弓2学童	62		生駒2学童	69
あすか野小	あすか野1学童	67		生駒3学童	71
	あすか野2学童	67	生駒東小	生駒東1学童	65
	あすか野3学童	69		生駒東2学童	60
	あすか野4学童	65	壱分小	壱分1学童	61
生駒台小	生駒台1学童	100		壱分2学童	49
	生駒台2学童	73		壱分3学童	55
俵口小	俵口1学童	48	生駒南小	生駒南A学童	42
	俵口2学童	39		生駒南B学童	50
			生駒南第二小	生駒南第二学童	39
				計	1,611

【評価基準】
S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

2 「遊び」を「学び」につなぐ就学前教育の充実

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和4年度の取組/設定目標	
幼児期の教育と小学校教育の育ちをつなぐ保幼小接続事業	保育所と幼稚園の学びを連続性・一貫性のある教育として小学校へつなぐ。	生駒市保幼小接続推進会議を3回開催し、年度末に一年間の取組を報告書にまとめ各校園に配布した。	A 目標通り生駒市保幼小接続推進会議を3回開催。2回目には、保育教育の質、カリキュラムマネジメント、記録と発信の重要性を題材とした研修会を開催し、保幼小接続についての学びを深めた。
		・推進会議実施 ・園児及び職員間交流の計画と実施 /保幼小推進接続会議の開催回数：3回	
保護者・地域と連携した特色ある幼稚園運営の取組	「遊び」を「学び」へつなぐ幼児教育を可視化し、保護者・地域の市民力を保育に取り入れ、特色ある幼稚園運営を行う。	・写真、動画、リーフレットを活用し「遊び」を「学び」への視点で幼児教育における保育活動を分析する研修を実施し、さらに認識を深めた。 ・状況に応じて感染対策を講じながら、保護者ボランティア、地域の方と活動を進めた。 /保護者・地域との協働回数：6回	A ・遊びの中の学びや幼児期の終わりまでに育てほしい姿について共有し、保育活動の分析を行うことができた。 ・機会を捉えて写真や動画、資料を使用し可視化して、保護者にわかりやすく示すことができた。 ・コロナ禍ではあったが、状況に応じて、保護者や地域の力を取り入れ、活動に取り組み、目標回数を達成できた。
		・コロナ禍における保護者、地域との協働にかかる取組の検討 ・教育目標を発信する手段を工夫し、発信回数を増加 /保護者・地域との協働回数：6回	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和4年度の取組/設定目標	
公立幼稚園 のあり方に関 する検討事 業	令和2年2月に答申を受けた「今後の生駒市立幼稚園のあり方について」を踏まえ、幼稚園のこども園化の実現性や園規模の適正化に向けた検討を進めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・決定された方向性に従い、地域や保護者と協働しながら園運営を行うため、地域園協働本部『えん・くろす』の活動をなばた幼稚園と俵口幼稚園で実施した。 ・壱分幼稚園 こども園化への検討 ・その他、方向性に基づく各種取組の検討、実施 	<p>A</p> <p>地域園協働本部『えん・くろす』の会議をなばた幼稚園で5回、俵口幼稚園で3回開催し、地域住民や保護者と共に朝市、移動図書館、体操教室や、水遊び、昔遊び等各種事業を企画・実施した。 今後は、コミュニティ・スクール制度の導入と併せ継続した取り組みを進める。</p>

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
市立幼稚園 における預 かり保育の 実施	子育て支援の一環として、預かり保育・長時間預かり保育を実施する。	預かり保育利用者数 [市立6幼稚園] のべ12,876人 [認定こども園生駒幼稚園、南こども園1号認定児] ・早朝・延長預かり保育 のべ 2,568人 通常預かり保育 のべ 4,422人	<p>A</p> <p>今年度から始まった三期休業中の預かり保育は好評で、夏期休業中のみであった昨年度からより一層保護者のニーズに応える子育て支援の役割を果たすことができた。</p>
生駒幼稚園 こども園移 行事業	子育て環境の充実を図るため、生駒幼稚園を幼稚園型認定こども園に移行する。	預かり保育利用者数 (1号認定児) のべ5,860人	<p>A</p> <p>保護者の就労により、前年度に比べ、利用者が増えた。</p>
特別支援教 育の充実	4、5歳児クラスに特別支援介助講師を配置する。	加配申請児 60名	<p>A</p> <p>特別支援加配を必要とする園児3人に1人の加配教諭を配置し、一人ひとりの特性に応じてきめ細かい支援を行うことができた。</p>

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組名称	活動内容	実績・成果	評価
幼稚園・保育所教員研修の実施	更なる就学前教育環境の充実を図るため、職員の資質向上につながる研修を実施する。	新規採用職員研修、中堅教員研修、常勤講師・保育士合同研修 幼稚園・保育園交流学习会 年間計10回	A 幼稚園保育園こども園の保育の公開を通して、乳幼児理解を深め、保育技術の向上につなげることができた。

【評価による課題】

職員の資質向上のための研修機会の確保と経験年数に応じた研修内容を今後も検討していく必要がある。
幼稚園における三期休業中預かり保育の利用者増加と預かり保育時間延長に対応するためには、幼稚園教諭の確保が必要である。また、全市的な待機児童解消のためには、保育士の確保が必要である。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

小規模保育所等の公募について、事業者幅広く周知を図るとともに、民間保育所が施設整備を行う際に支援できるように、国及び県からの補助金の確保に努める。

<参考データ>

市立幼稚園園児数（令和5.5.1時点） （単位：人）

3歳児	4歳児	5歳児	合計
169	240	208	617

市立保育所園児数（令和5.5.1時点） （単位：人）

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
27	70	106	148	149	143	643

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

基本方針 2 21世紀を生き抜くしなやかでたくましい人づくり

1 「地域に開かれ、地域とともにある学校づくり」の推進

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和4年度の取組/設定目標	
コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度) の推進	学校と地域住民等が力を合わせて子どもたちの成長を育むため、地域住民等が学校運営に取り組むことが可能となる学校運営協議会を各小・中学校に設置し、地域とともにある、地域に開かれた学校を推進する。地域の現実に即した当事者能力を子どもたちに育むため、学校運営協議会によるカリキュラムの提案も歓迎する。	学校運営協議会を市内全小中学校に設置し、カリキュラムの提案も歓迎するという方針で協議を行った。 /学校運営協議会設置校数：19校、学校運営協議会の開催回数：58回 学校運営協議会の開催 /学校運営協議会設置校数：全校 学校運営協議会の開催回数：57回	A 市内全小中学校に学校運営協議会を設置し、本格的に地域学校協働活動が始まった。地域ぐるみ連絡協議会で3校が発表し1年間の取組を共有した。

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
積極的な情報公開と学校評価の実施	学校評価を実施・公表し、改善点を明確にするなど、更なる学校経営の充実を図るとともに、ホームページでの情報掲載など、積極的な情報公開による開かれた学校づくりを推進する。	・3校で1日学校訪問を実施した。 ・学校評価総括表を活用した学校評価を全校で実施した。	A 学校評価総括表を活用した学校評価を全校で実施し、ホームページや学校だよりでの情報公開を実施できた。
学校創造推進事業	保護者や地域住民との連携のもとで様々な取組を実施し、信頼され、開かれた学校づくりを進める。	地域の方々との交流の機会や命を守るための教育活動を充実するなど、各校で特色のある教育活動を実施した。 実施回数：1,905回	A 特色のある教育活動を推進することにより、信頼され、開かれた学校づくりを進めることができた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
 A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
 B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
 C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組名称	活動内容	実績・成果	評価
安全教育の推進	学校安全教育の実施や迅速な不審者情報の提供など安全教育委を推進する。	各校からの不審者情報をもとに、子ども安全メールへの掲載を希望される事象に対して、登録者に対してメールを配信した。年間で34回配信し、情報を周知した。	A 保護者や地域の方に子ども安全メールを活用し、いち早く不審者情報を伝えることで、子どもを見守るための意識の向上や犯罪抑止に努めた。
スクールボランティアプログラム・学びのサポーター派遣事業	地域住民がスクールボランティア、市内の大学生が学びのサポーターとして、学校運営に協力し、学校教育の充実を図る。	スクールボランティアと協力し、学校教育の充実を図った。また、学びのサポーターを年間632日間、小学校中学校に配置した。	A 学びのサポーターを各小中学校へ派遣することにより、学校の取り組みを支援し学校教育の充実を図った。
放課後子ども教室の運営	地域学校協働活動として放課後や長期休業中等において、子どもたちが安心・安全に過ごし、多様な体験・活動ができる居場所をつくる。	市内7校において放課後の子どもの居場所として155回開催。登録人数289人。のべ参加人数3966人。	A 新たに2校で放課後子ども教室が開かれ、子どもが多様な体験・活動の場が広がった。
いこま教育フォーラムの実施	教育行政課題からテーマを選定しながら教育委員会の方針や活動、学校の様子を伝える機会にするとともに、保護者や市民をはじめとした多くの人の声を吸い上げる場とする。	いこま教育フォーラムを3回実施した。テーマは、より伝えるべきものを選定し、ICT教育、子どもの居場所づくり、これからの教育として実施した。	S 全ての回で会場での参加、YouTubeLiveでの参加を可能としたことで、年齢、地域を問わず多くの方に参加いただいた。参加者の満足度も概ね良好であった。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

市内全小中学校に設置されている学校運営協議会を中心としたコミュニティ・スクールの活動において、地域と学校が連携した活動をさらに推進していくために、各地域での取組を共有するとともに地域や保護者だけでなく子どもたちの意見を運営に反映していくことが課題である。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

令和4年度の実績や情報を学校間でも共有するとともに、地域や保護者だけでなく子どもたちの意見を大切にしながら、コミュニティ・スクールとして、地域に開かれた学校を推進していく。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

2 ICT 機器を活用した新たな学びの創出と時代に応じた環境整備

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和4年度の取組/設定目標	
GIGA スクール構想をはじめとした令和の日本型教育の実証事業	GIGA スクール構想に基づき配備された児童生徒1人1台のPC 端末を効果的に利用することにより、ICT を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による新しい学びの形をいこまモデルとして提案し、日常的な指導において日々改善を図ることで効果を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・AI 学習ドリルを用いた個別最適な学びの検証として小・中1校ずつモデル校での継続実証を行った。児童・生徒・教員を対象にアンケートを実施した。 ・協働的な学びの推進として、オンラインを活用した研修や、授業の提案を行った。 ・SDGs をテーマとした探究学習として、二小では引き続き地域や大学、団体等と協働した取組を実施するとともに、その取組は俵小でも実施された。また、生小では SDGs をテーマとしたカリキュラム作りも進んでおり、ユネスコスクール認定に向けた準備を進めている。その他、多くの学校で、外部人材、企業、他校等と協働を通じた学びを進めた。 	<p>A</p> <p>AI 学習ドリルについては、実証校における活用率が向上した。アンケート結果では「勉強が前よりもよく分かる」と答えた児童生徒が半数を超えた。学習ドリルの一括導入と費用対効果について検討する必要がある。協働的な学びについては、多くの学校で、企業や他校との取組が進んでおり、自主的にカリキュラム化する学校も現れるなど成果が上がってきている。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・全校での実施に向けた各校への周知 ・各校での実践 	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		令和4年度の取組/設定目標		
ICT を活用 した教育の 推進	全小中学校に児童生徒1人1台整備された情報端末を生かした学習指導計画を立案し、日常的学習活動に位置づけることで、学習内容理解の充実を図るとともに、ICTを活用した新しい学習形態を実現する。	児童生徒に1人1台のPC端末を活用した取組や学習を推進した。 /活用報告事例数： 578件	・情報端末を活用した授業の展開 /活用報告事例数： 288件	A 児童生徒がPC端末に慣れ、様々なアプリやブラウザツールを活用した協働学習が進んでいる。今後、ICTを活用した新しい学習形態の実現を目指す。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
 A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
 B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
 C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		令和4年度の取組/設定目標		
ICT 活用教育リーダー育成研修の実施	校務処理や教材開発などに係る高度なICTスキルを身に付けた教員を育成することで、学校におけるICT利用の日常化を図るとともに、指導場面における効果的なICT利用の形態を提案し、実証することのできる教員の育成を図る。	ICT 活用教育リーダー育成研修の実施 /研修の実施回数:7回	リーダー研修後、各校で職員研修の実施 /研修の実施回数:7回	A オンラインでの実施により参加しやすい環境を設定できた。各校の取組を発表する機会を設けたことにより取組内容の市内の学校に共有することができた。研修で行った内容をもとに各校で取組を進めることができ、ICT活用における教員の質を高め、業務などの平準化を図ることができた。
プログラミング教育の推進	小学校の学習活動の中でプログラミング的思考の育成を各教科等の授業で進めていくため、「プログラミング教育推進計画」を策定し、プログラミング教育を実施する。	プログラミング教育実施の推進 /1校当たりの平均授業時間数:50時間	・授業実施 1~4年:6時間 5・6年:12時間 ・授業実践の交流 /1校当たりの平均授業時間数:48時間	A 小学校において、プログラミング教育推進計画を基に計画的にプログラミング学習を実施することができた。
ICT 活用教育支援事業	全小中学校に児童生徒1人1台整備したPC端末を、授業等で円滑に活用するため、ICT支援員を配置する。	小中学校19校に1名ずつICT支援員を週1回(半日)配置した。県域ICT支援センターの活用(日々の活用、年次更新)	・令和3年度の配置の検証を踏まえたICT支援員の配置 ・県域ICT支援センターの活用 /ICT支援員配置回数:週1回	A 全小中学校にICT支援員を配置し、児童生徒1人1台端末を、授業等で円滑に活用できるよう支援体制を整え、端末操作支援だけでなく、授業支援や各種研修を行うことができた。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		令和4年度の取組/設定目標		
小・中学校の あり方検討 事業	令和2年2月に答申を受けた「今後の生駒市立小・中学校のあり方について」を踏まえ、学校規模の適正化に向けた検討を進めていく。	「生駒市立小・中学校のあり方に関する基本的な考え方」や、「地域協議会からの意見書」を踏まえた「生駒市立小・中学校の再編等に係る方向性」を受け、「生駒市立生駒南小・中学校の今後の方向性について」を協議した。	方向性に基づく各種取組の検討、実施	A 「生駒市立生駒南小・中学校の今後の方向性について」を決定するに当たり、地域での会議を3回、先進校視察を2回、地域向けの説明会を2回実施した。総合教育会議についても2回実施しながら、教育委員会での議案審議も9月から継続審議を繰り返し1月に方向性を決定した。地域への説明に当たっては、これまでの経緯を含めて丁寧に行った。
中学校トイレ改修事業	老朽化が顕著である全中学校の校舎のトイレ改修(洋式化・乾式化)を順次行い、生徒の日常的な学校環境を改善する。	生駒南中学校のトイレ洋式化改修工事を実施した。	令和4年度で全中学校の校舎のトイレ洋式化が完了	A 生駒南中学校のトイレ改修により洋式化を行った。これにより、全中学校の校舎のトイレ洋式化が完了し、学校環境の改善を図ることができた。
学校施設の 計画的な大規模改修事業	建設から40年程度経過している学校施設について、老朽化が進んでいることから、順次計画的に改修を行っていく。	上中学校の大規模改修に係る耐力度調査及び基本設計を契約締結し、着手した。	設計	B 上中学校の長寿命化を図るための大規模改修に必要な耐力度調査及び基本設計に着手することができた。
学校給食センター整備事業	中学校給食センターの老朽化に伴う施設の改修と更新	令和3年6月に着工した2カ年事業の改修整備工事において、令和3年度施工予定箇所が令和4年度にずれ込んだ箇所を含め、完了することができた。	工事 施工管理	B 当初予定の令和4年9月30日までの工期を令和5年1月31日まで延長する事となったが、給食の提供を中止することなく工事を完了することができた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
 A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
 B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
 C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業・取組名称	活動内容	実績・成果	評価
生駒南小学校・中学校老朽化対策事業	老朽化が進んでいる生駒南小学校及び生駒南中学校の全面改築も含めた整備を実施する。	境界確定のための事前調査	A 境界確定を行うために必要となる公図の作成を行い、境界確定業務に必要な筆数の把握を行うことができた。

【評価による課題】

日常的に1人1台のPC端末を活用したオンライン授業や、ICTを活用した取組を進めることができた。各校から取組事例の共有を行い教職員の能力育成を進めている。苦手な教職員のスキルアップや授業内での効果的な活用が課題である。
 学校施設の多くは老朽化の課題を抱えており、学校運営にも支障が生じかねないことから、計画的な大規模改修を行っていく必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

教員のICT活用能力の向上については、今後県とも連携しながら、研修を行っていくとともに、ICT活用に関する事例等を積極的に周知していく。ICT支援員によるサポートも非常に重要であり、今後も継続していく必要がある。施設の老朽化については、財政負担も考慮しつつ、計画的に実施できるよう長期的な視点に立って実施していく。

学校給食の実施状況 (単位：回、円)

	実施回数	給食費(月額)
小学校	188	4,400
中学校	175	4,800

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

3 多様性を認める柔軟性とやさしい心の育成

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和4年度の取組/設定目標	
自殺対策推進事業	平成31年3月に策定した「生駒市自殺対策計画」に基づき、「SOSの出し方に関する教育」の研修を実施する。そして児童生徒の心身の状況の把握や児童生徒への相談窓口の周知徹底を行い、スクールカウンセラー等の活用を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修と児童生徒対象にSOSの出し方授業を開催した。 ・全校(20校)にて授業を開催した。 /回数:21回 <ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修での実施 ・各校にて児童生徒に対して開催 /研修回数:21回	A 児童生徒の自殺の現状や、自殺に至る要因などを学び、児童生徒の自死に対しての学校の危機感を高めることができた。また、教員がカウンセリングマインドを身につけることの重要性や、自傷行為を行う児童生徒に対する対処法などを学び、学校としてできる対応への理解が浸透した。
ICT機器を安全に活用するための情報モラル教育の推進	情報社会における安全やルールを児童生徒が主体的に考え、正しく理解し行動するための情報モラルを育成する。	ICT支援員や専門家を活用した教員向け、児童生徒向け研修を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が主体的に考え、正しく行動するためのルール作りの実施 ・スマホサミットを開催し、各校の取組の交流 	A 著作権侵害など新しい学びに関する課題等について専門家を迎えオンライン開催など様々な形式を用いて研修を実施した。生徒会交流会を開き、各中学校の生徒会で情報を共有し合う場を設定した。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		令和4年度の取組/設定目標		
いじめ防止 等の施策推 進	平成29年3月に策 定した「生駒市いじ め防止基本方針」に 基づき、いじめ防止、 早期発見につながる 取組を推進する。	生駒市いじめ問題対 策連絡協議会を2回 開催した。	・「生駒市いじめ防止 基本方針」の改訂 ・生駒市いじめ問題 対策連絡協議会 の開催 /開催回数：2回	A 令和4年度は、 「生駒市いじめ防 止基本方針に基 づいた対応の徹 底」、「児童生徒 の自殺防止の取 組」を主なテーマ にして議論を行っ た。
特別支援教 育の充実	特別支援学級在籍児 童生徒の学習支援、 機能回復のための環 境及び体制の充実を 図る。	特別支援教育相談を 89件おこなった。	特別支援教育相談の 実施 /特別支援教育相談 日数：33日	A 特別支援学級在 籍児童生徒や通 常学級に在籍し 特別な支援を必 要とする児童生 徒及びその保護 者・教師に対する 教育相談を、専門 知識を有する者 で相談を受ける 体制を整えた。
小学生を対 象とした適 応指導教室 の開設	学校に登校しにくい 児童に対して居場所 となる適応指導教室 を生駒南第二小学校 の校舎の一部に開設 する。	心理的あるいは情緒 的な原因などにより 登校できない児童に 支援を実施。	生駒南第二小学校内 に、教育相談室、適 応指導教室の開設	A 心理的あるいは 情緒的な原因な どにより登校で きない児童への居 場所づくりとし て、生駒南第二小 学校内に開設。令 和4年度は39名 が在籍、相談等 でつながった児童 は47名いた。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業・取組名称	活動内容	実績・成果	評価
特別支援教育支援員の配置	介助や指導補助、学習補助等を行う特別支援教育支援員を各校に配置する。	特別支援教育支援員を平均で各校週6日分配置することができた。	A 各校に就学指導委員が調査を実施。各校の実情に合わせて支援員を配置し、きめ細やかな教育支援をすることが可能となった。
スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールアドバイザーズの活用	スクールカウンセラー等を活用し、いじめ問題等の早期解決や教育相談などの体制充実を図る。	市費SCの配置時間を大幅に増加し、中学校で週に1回、小学校で月に1.5回、1回4時間の活用を行った。SSWは週に1回教育支援施設に配置し、学校の要請に応じて派遣を行った。スクールアドバイザーズは必要に応じて意見をいただいた。	A SC、SSW、スクールアドバイザーズの活用を通して、学校、児童生徒、教員及び保護者に対する指導・助言・支援を行い、学校のカウンセリング機能や教育相談体制の充実を図ることができ、より多くの相談への対応が可能となった。
教育相談の実施	教育相談員やスクールカウンセラーなどの専門家を活用し、教育相談を行える環境を整備する。	5名の相談員とカウンセラーなどで教育相談を実施。相談件数：1,630件	A 不登校に関する相談が1,123件と全体の約69%であり、不登校に悩む中学生に対して、学校以外の居場所づくりとして、「いきいきほっとルーム」を紹介し、入室につなげた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
 A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
 B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
 C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組名称	活動内容	実績・成果	評価
ことばの教室・通級指導教室エルの運営	読み書きやコミュニケーションなどで困っている幼児や児童を支援するために設置していることばの教室・通級指導教室を運営する。	ことばの教室・通級指導教室エルへの通級者数は44人であった。	A 幼児、児童生徒の障がいの重複化や多様化、一人一人の教育的ニーズに応じた教育支援を実施することができた。
適応指導教室の運営	心理的あるいは情緒的な原因等により登校できない児童生徒を対象に設置している適応指導教室を運営し、学校生活への復帰を支援する。	心理的あるいは情緒的な原因等により登校できない児童生徒に支援を実施。	A 教育相談室への相談を経て、心理的あるいは情緒的な原因等により登校できない児童生徒への居場所づくり、無理のない形での学校復帰を支援することができた。(令和4年度は39名が在籍)

【評価による課題】

いじめ防止等に向けた学校づくりを進める中で、教員が児童生徒の出す信号に対して素早く適切に対応することが必要となる。また、特別支援教育支援員を各校に配置しているが、支援を必要とする児童生徒が増加しているため、特別支援教育支援員や学びのサポーターによる支援体制の強化と共に、発達障害の特性を教員で共有し合い、通常の授業の中でも支援の行き届いたユニバーサルデザインの授業について研修していく必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

いじめ防止等に向けた学校づくりを進めるとともに、6月を「いじめ防止月間」とし、取組を強化する。特別支援教育相談、就学前教育相談による個別相談の充実を図り、発達障害等、特別な支援を要する児童生徒に対し、特別支援教育支援員や学びのサポーターによる学習や活動の支援を実施し、児童生徒、保護者、指導者に対する支援・相談体制を推進する。また、特別支援教育に関して、個別の支援計画作成の研修やユニバーサルデザインの授業に関する研修を実施し、学校での児童生徒への合理的配慮や支援体制の充実に向けた取組を進める。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

4 主体的に学び、挑戦を続けるたくましい心の育成

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和4年度の取組/設定目標	
読書活動・学校図書館の充実	現在、小中学校すべてに学校司書を配置しており、一定の効果が得られているが、さらに読書を通じて豊かな人間性を育むため、学校司書の配置を拡充する。	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校に週3日学校司書を配置。 ・12/23 ビブリオバトル開催1回 ・学校司書を全小中学校に配置 ・ビブリオバトル市内中学生大会の実施 / 学校司書配置日数：週3日・市内中学生ビブリオバトル開催数：1回	A 学校司書と司書教諭が連携し、図書館の環境整備や図書に関するイベントの開催により、児童生徒の読書意欲を向上することができた。また、中学生対象にビブリオバトルを開催した。
社会に開かれた学校教育推進事業	あこがれいこまびと講演事業、学校教育創造推進事業、キャリア教育プランナーとの連携事業による、地域出身の文化人、スポーツ関係者、事業者等、社会で活躍されている方の講演等を通して、児童生徒が郷土愛を持ち、自分の夢に向かって生き生きと活動し、自己有用感を持って将来社会で活躍できる人材を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・あこがれいこまびと講演事業では、3校で6事業を実施。 ・キャリア教育プランナーとの連携事業58回 ・教員からのボトムアップで推進するICT教育が、ICT教育アワードで経済産業大臣賞を受賞。 ・小学生がつくる地域のデジタル図鑑「にしょロボくん」プロジェクトがキャリア教育推進連携表彰で優秀賞を受賞。 ・あこがれいこまびと講演事業、学校教育創造推進事業、キャリア教育プランナーとの連携事業の実施 / キャリア教育プランナーとの連携事業実施回数：17回	S <ul style="list-style-type: none"> ・あこがれいこまびと講演事業では、地域出身の方の講演等を通して児童生徒の郷土愛を育むとともに将来の自分のあり方に関心を持たせることができた。 ・キャリア教育プランナーについては、社会に開かれた教育課程を実施すべく、学校からのニーズに応じたハンズオン支援を引き続き行った。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		令和4年度の取組/設定目標		
部活動支援 事業	中学校において、専門的な技術指導力を備えた指導者が不在の部に対し、地域の適切な人材を外部指導者として派遣し、部顧問と協力して指導・助言を行わせることにより、部活動を充実させる。	バレーボール、ソフトボール、陸上、バスケットボール、ハンドボール、柔道、テニス、吹奏楽、茶道など、専門的な技術指導力を備えた外部指導者を8校に派遣。部活動指導員実施時間数：1472時間	中学校に外部指導者を配置 /部活動指導員配置時間数：1440時間	A 専門的な技術指導力を備えた指導者が不在で、学校長が必要と認められた部活動に対し、外部指導者を派遣できた。今後部活動の地域移行が本格化していく中、地域指導員を確保する意味でも、前年度よりも多くの指導員を任用できたことには大きな意味があった。
生駒こども チャレンジ 補助事業	学校の各種コンテスト等に挑戦するために必要となる経費等を補助する制度を創設し、児童生徒の創造性を培い、達成感を味わうとともに、自己肯定感を高める。	1校がロボットコンテストに1校がプラスバンドのコンテストに参加。	生駒こどもチャレンジ補助事業の継続実施 /実施学校数：2校	A コンテストに参加し、チームで協力することを通して、達成感を味わうことができた。
チャレンジ！やさしくたくましいこまっ子キャンプ	既存の自然体験学習のメニューとして防災キャンプを加え、児童の防災意識を高め、命を守ることの大切さを再認識し、災害発生時に自分の命を守る行動を身につける。	11校で防災プログラムを実施。	各小中学校の判断に基づくいこまっ子キャンプの実施 /実施学校数：12校	A 自然と向き合った防災体験活動を取り入れることで、児童生徒の「生きる力」を育むことができた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
 A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
 B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
 C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業・取組名称	活動内容	実績・成果	評価
小学校1年生30人程度学級の実施	本市独自の取組として、学校教育の充実を図るため、小学校1年生30人程度学級を実施する。	全小学校において30人程度学級を実施することで、小学校1年生に対して、きめ細かい指導を行った。	A 国の少人数学級の実現として、段階的に35人学級が実施されることとなり、2年生までは、35人学級になっているが、1年生については、引き続きすべての学校において達成することができた。
伝え合う力育成事業	豊かな人間性を育むため、読書活動を推進し、各校に学校司書を配置する。	全ての小中学校に週3日、学校司書を配置した。	A 学校司書と司書教諭が連携し、図書館の環境整備や図書に関するイベントの開催により、児童生徒の読書意欲を向上することができた。
奈良先端科学技術大学院大学と連携した授業の実施	中学校を対象に奈良先端科学技術大学院大学の講師等を招き、授業を行うことで学ぶことの興味・関心を高める。	光や分子、生物などをテーマにした出前授業を8校で実施。授業を受けた生徒の9割が授業は興味深い内容であったと回答した。	A 理科離れが進む中、学校では体験できない最先端の科学に触れることで、理科学習への興味・関心を高めることができた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

地域の大学講師や地域出身の文化人、部活動指導員など地域の外部指導者を活用した取組を進めることにより専門的な知識を学びつつ郷土への愛着を感じるきっかけを作ることができた。専門性の低い教職員が担当する部活動においてより専門性をもった人材を活用できるように、実施回数を増やしていく必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

部活動への外部指導者の派遣や地域出身者の講演会を実施し、児童生徒が未来への夢を創造できる取組を今後も推進していく。

<参考データ>

市立小・中学校 児童生徒数（令和4.5.1時点）（単位：クラス、人）

小学校名	クラス数	児童数	中学校名	クラス数	児童数
生駒	29	659	生駒	19	550
生駒南	19	385	生駒南	10	150
生駒北	10	144	生駒北	5	76
生駒台	32	740	緑ヶ丘	17	498
生駒東	21	499	鹿ノ台	11	260
真弓	28	664	上	21	664
俵口	19	460	光明	13	383
鹿ノ台	26	572	大瀬	19	515
桜ヶ丘	27	689	合 計	115	3,096
あすか野	36	913			
壺分	32	777			
生駒南第二	9	182			
合 計	288	6,684			

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

5 「楽しい授業づくり」のための教職員の育成と環境整備

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和4年度の取組/設定目標	
教職員がい いきいと子 どもと向き 合う時間創 造プログラ ムの推進	教職員が健康でいき いきとやりがいをも って働ける環境整備 を行い、教職員が授 業や教材研究等に集 中し、ゆとりをもっ て子どもたちと向き 合う時間の拡充を図 る。	市内18校にスクール サポートスタッフを配 置した。 ・スクールサポートス タッフの全校配置 ・校務支援システム の運用 ・給食費管理システ ム業務導入	B スクールサポート スタッフを配置す ることで、教職員 の働き方改革に 貢献し、勤務時間 の削減を行うこと ができた。 全校配置できるよ うに取組を進め る。
グローバル 時代に対応 した外国語 教育の推進	小学校1年生から英 語の楽しさを感じら れる取組を行い、小 中学校9年間を通し た系統的な英語教育 カリキュラムを実施 する。	小学校3・4年生で 35時間外国語活動 を行い、5・6年生で 70時間外国語(英 語)を実施。市では 独自に小学校1・2年 生に対して教材を作 成し、10時間程度外 国語活動を実施。 年間小学校1・2年生 で10時間程度、小学 校3・4年生で35時 間英語活動、小学 校5・6年生で70時 間英語を実施(ALT、 わくわくイングリッシュサ ポーターを配置) /全国学力調査より 「①英語の勉強は好 きですか」「②英語 の授業で自分自身 の考えや気持ちを 伝え合うことができ ましたか」の質問に 対して、「当てはま る」「どちらかとい えば当てはまる」と回 答した生徒の割合 小学校6年 ①67.0②67.0 中学校3年 ①61.0②62.0	A 小学校1年生か らALTとともに 楽しみながら外国 語活動を行うこと で、抵抗感がなく なり、英語に対し て慣れ親しむこと ができた。系統的 な英語教育カリキ ュラムを実施す ることにより、英語 の基礎的な力を 身に付けることが できた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和4年度の取組/設定目標	
問題発見能力や他者と協働するコミュニケーション能力の育成	21世紀を生き抜く力として、授業において、日常の疑問を発見する力やコミュニケーション能力の育成を図るとともに、必要となる教職員の能力育成のための研修を強化する。	本市キャリア教育プランナーによる「学校と社会、今と未来をつなぐ授業の作り方」と題した研修を行った。参加人数：215人 教職員のファシリテーション能力の育成のための研修開催/生駒市教育研修会参加者数：300人	A キャリア教育プランナーによる取組を紹介し、同様の取組の横展開を進めることができた。市内で新たな取組について職員への啓発も行った。

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
講師不足対策	定数内講師の不足の解消及び、今後予想される講師不足に関する施策を実施する。潜在的な人材、積極的に講師を選択する人材など、多様なニーズに対応できるような取組を進める。	・講師・支援員等就労説明会を2月から3月にかけて実施 ・いこま de 先生シェアハウスの準備	S 講師・支援員等就労説明会を実施した結果、55人が登録し、12人のマッチングが成立した。 先生シェアハウスについては、住宅政策室とも連携し、候補物件の検討等、準備を進めた。

【評価による課題】

スクールサポートスタッフの勤務により、教職員の勤務時間が削減されたが、市内すべての学校に配置されていない。全ての学校にスクールサポートスタッフを配置する必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

市内全ての学校にスクールサポートスタッフを配置し、教職員の働き方改革を進めていく。スクールサポートスタッフの研修を行い、業務内容の共有を図る。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

基本方針3 すべてのライフステージで、楽しみながら学び、地域とつながる機会づくり

1 すべての人が楽しく、安心して成長し、活躍できる機会の創出

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組名称	活動内容	実績・成果	評価	
		令和4年度の取組/設定目標		
幅広い世代への学ぶ機会の提供と地域の人材活用	「IKOMA サマーセミナー」など、様々な特技や専門知識等を持った市民自身が先生となって、市民への学びや体験の場を提供するとともに、市民が活躍する機会とする。また、このような場づくりを市民が主体となって継続的に取り組む、さらに発展していけるよう支援することで、生駒の誇る「市民力」をさらに引き出し、市民のスキルやアイデアを活かしたまちづくりにつなげる。	<p>「IKOMA サマーセミナー2022」 実行委員数:11人 開催日:令和4年8月21日(たけまるホール) 講座数:30講座 延べ受講者数:362人 参加者実人数:185人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民主体の実行委員会による開催・運営 ・先生募集対象の拡大 <p>/IKOMA サマーセミナー実行委員数:15人</p>	A	<p>実行委員会が主体となり、3年ぶりに対面形式で開催することができた。実行委員等から周知や声掛けを行い、30人のうち14人が初めて先生を務めるなど、新たな人材の発掘につながった。今後も実行委員や先生になっていただく方など、本事業に携わる人材の拡充を図り、さらなる事業の充実と円滑な実施につなげる。</p>
市民同士の交流や地域参画を促す学びの場の展開	主に働き盛り世代をターゲットに、市内の地域資源を活用した学びの場を提供することで、地域への関心や愛着心を高めるとともに、地域や社会生活に関わる様々なテーマをもとに学び合う場を通して市民同士の交流や地域参画を促す。	<ul style="list-style-type: none"> ・学びと交流の社会見学開催回数:5回 延べ参加者数:125人 ・未来ひろがる学びの場「ischool」の立ち上げ(令和4年11月~)オープニングイベント開催:2回 参加者数:493人 講座開催:7回 延べ参加者数:201人 ・「学びのポータルサイト」の開設 開設から年度末までのページビュー数:8,720 ・「オトナの社会見学」の実施 ・市民が主体的に学び合う仕組みの構築に向けた検討 ・学びのポータルサイトの運用 	S	<ul style="list-style-type: none"> ・市民や団体と連携した企画による社会見学を実施し、市民の学びと交流、地域活動のきっかけの場を提供することができた。 ・年度末の立ち上げを予定していた新たな学びの場「ischool」を11月に立ち上げ、子育て世代の関心やニーズを踏まえた講座を企画実施したほか、学びのポータルサイトを同時に開設し、講座の告知からレポートまで様々な学びの情報を発信した。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和4年度の取組/設定目標	
高齢者の学びへの意欲向上と、学びを「行動」につなげる仕組みづくり	「いこま寿大学」の内容を充実させ、高齢者の学習意欲を引き出すとともに、学びの成果をまちづくりにつなげられる人材を発掘、育成する。 また、「寿生駒連絡協議会」(気らくネット)に代表される同大学の卒業生など有志の市民が地域や学校等と連携しながらまちづくりの担い手として活躍する機会を増やしていけるよう支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・「いこま寿大学」について、2年間の学習期間や再入学も可能とする新たな仕組みを構築、令和5年度入学者から適用 ・「ボランティア講座」のほか、生駒のまちや地域活動への関心を高める新たな講座を実施 ・校長会で地域学校協働活動の担い手として気らくネットを紹介。小学校3校で活動が行われた。 ・社会貢献活動への参加意欲を促す講習会の開設やクラブ学習課程の改善 ・高齢者のニーズや時代の流れを反映するカリキュラムや運営体制等の見直し ・気らくネットによる地域での社会貢献活動の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート等の実施により、学生やシニア世代のニーズを把握し、令和5年度からの運用に向けた寿大学の新たな仕組みを構築した。令和5年度の入学希望者は158人となり前年度の71人を大幅に上回った。 ・「ボランティア講座」では、参加者の半数近くがボランティア活動への意欲を示し、社会貢献活動への参加を促すことができた。 ・気らくネットと市内小中学校との連携を引き続き進め、小学校での菜園整備や紙芝居の活動が行われるなど、地域における寿大学卒業生の活躍の場につなげた。
困難を抱える子ども・若者に対する支援の充実	子ども・若者総合相談窓口「ユースネットいこま」を拠点として、様々な困難を抱える子ども・若者が自立した社会生活を送れるよう、「生駒市子ども・若者支援ネットワーク」の有効活用及び関係機関との連携のもと必要な支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ユースネットいこま」における相談支援 ・相談人数 101人(うち新規 55人) ・進路決定者 19人 「生駒市子ども・若者支援ネットワーク」の運営 ・ユースネットいこまにおける相談支援 ・「生駒市子ども・若者支援ネットワーク」の運営 /ユースネットいこまの相談者数:120人 	<ul style="list-style-type: none"> ・対面を中心に、オンラインやメール等も活用した相談に応じ、自立に向けた支援を行った。 ・広報紙での特集記事の掲載や自治会、学校でのポスター掲示、生徒へのチラシ等の配布など、「ユースネットいこま」の周知を広く行うことで、新規の相談につながった。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和4年度の取組/設定目標	
多様性を認め合う場の提供	年齢や性別、障がいの有無や国籍、文化など個々人の違いや多様性を認め合う学びや体験の機会を提供する。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 「ユニバーサルキャンプ in 生駒」の開催 /参加者数:60人	B コロナ禍の影響もあり宿泊行事の開催は困難と判断。異文化交流等に関しては庁内他課の事業もあり、本事業のあり方について今後検討していく必要がある。

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
生涯学習施設の設備の充実	生涯学習施設の設備を充実させ、市民サービスの向上を図る。	・北コミュニティセンターISTAはばたき空気調和機整備工事完了 ・新型コロナウイルス感染対策備品等の購入、設置	A 施設を安全かつ快適に利用できるよう、施設改修を行った上で、感染症対策のための設備・備品を充実させた。
生涯学習施設の管理運営	市民の生涯学習の拠点となる生涯学習施設を適切に管理運営し、生涯学習の活性化につなげる。	生涯学習施設の利用人数:813,540人	A 新型コロナウイルス感染拡大による利用制限等を段階的に緩和し、市民に対し施設の利用料金の減免を継続したことで利用者数は回復し、文化活動等の利用促進に寄与した。
体育施設整備事業	子どもから高齢者、障がい者まで誰もが安心・安全に利用できる施設とするため、トイレの洋式化を進める。また、老朽化が進んでいる市内体育施設を適切に維持管理し、利用者の安心と安全を確保する。	・総合公園体育館非構造部材改修及び照明LED化工事完了 ・武道館及びイモ山公園プール管理棟洋式化等トイレ改修工事完了	A 総合公園体育館非構造部材改修及び照明LED化工事や武道館及びイモ山公園プール管理棟洋式化等トイレ改修工事等を実施し、災害時には避難所となる施設の環境整備を行った。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

新たに働き盛り世代へのアプローチも進めているが、さらに働き盛り世代も含めたあらゆる世代に生涯学習の裾野を広げていくとともに、一人でも多くの参加者が学びの成果を何らかの形で社会還元につなげていけるような仕掛けを検討する必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

引き続き、市民等との連携・協働を進め、若い世代も積極的に参加したくなるような学びの機会を提供していく。また、学びの事業の中で、地域活動等を身近なものとして具体的なイメージが伝わるような情報提供を行うなど社会還元につなげるための工夫を行う。

<参考データ>

生涯学習施設の利用者数

(単位：件、人)

	令和4年度		令和3年度	
	利用件数	利用人数	利用件数	利用人数
たけまるホール	12,323	174,459	10,358	95,203
やまびこホール	80	1,329	51	584
鹿ノ台ふれあいホール	3,227	39,488	3,057	26,485
生駒市図書館	4,032	78,158	3,425	36,707
生駒市コミュニティセンター	11,361	159,361	11,317	80,600
南コミュニティセンターせせらぎ	8,485	113,047	7,127	63,802
北コミュニティセンターISTAはばたき	10,613	152,761	11,034	88,469
芸術会館美楽来	6,466	94,937	4,839	52,283
合計	57,291	813,540	51,208	444,133

いこま寿大学の在籍者数等

(単位：クラブ、人)

	クラブ数	在籍者数	入学者数	定員	応募者数	卒業者数
令和元年度	14	753	196	275	202	165
令和2年度	16(※1)	635	83	275	154	130
令和3年度	16	511	84(※2)	275	65	129
令和4年度	16	355	73(※2)	275	71	96

(※1) 歴史クラブと健康体操クラブを新設、ハイキングクラブ(自主10km、自主8km)を募集停止とした。

(※2) 令和2年度に願書を提出したがコロナ禍のため入学を見送り、令和3年度に改めて入学した者を含んでいる。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

2 人と本、人と人をつなぎ、まちづくりの拠点となる可能性に満ちた図書館づくり

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和4年度の取組/設定目標	
子ども読書活動の充実	子ども読書活動における家庭・地域・学校の新しい連携づくり	「トライ！生駒子ども読書会議」を3回実施。 「家読」推進を図る活動に参加者が各自実施し、会議で意見交換を行う。 /生駒子ども読書会議の開催回数：ワークショップ3回	A 「トライ！生駒子ども読書会議」では家読をテーマに講演会を開催。各回で小中学校や幼稚園での取組を発表し意見交換を行った。
「人を通して人を知る」「本を通して人を知る」をキャッチフレーズとするビブリオバトル全国大会の開催	図書館が本を通じて語り合う場になるとともに、年齢や地域の枠を超えた全国大会を開催する。	発表者 5人 観戦者 247人 計 252人 ビブリオバトル全国大会 in いこまを開催 /ビブリオバトル全国大会の参加者数：380人	A 予選はオンラインで4回、オフラインで1回開催し延べ131人参加。予選バトラーによる前夜祭も開催した。
市民との連携や「協創」のもと、まちづくりの拠点となる図書館づくり	市民との連携や「協創」のもと、人と本、人と人をつなぐ事業を行い、新たな文化を創造する「まちづくりのプラットフォーム」となる図書館を目指す。	・「本棚のWA」3回 「未在亭」3回、「朝活読得会」を本館、北分館、駅前図書室で定期的実施。 ・まちかど図書室 23団体となり、リサイクル本 414冊を提供した。 ・図書館事業ボランティア団体数が14団体となった。 市民との「協創」事業の開催、まちかど図書室活動の推進 /図書館事業ボランティア団体数：12団体	A コロナで中止していた市民協働イベントを少しずつ再開することができた。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和4年度の取組/設定目標	
図書館読書 バリアフリー 事業	障がい、高齢等の理由により、図書館の利用に困難を感じている人が気軽に利用できる図書館を目指し、ボランティアとともに読書推進を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・音訳ボランティアによる録音図書作成、対面音訳12回、耳で楽しむ本の会281人。 ・宅配サービスは、435回1,679冊。 ・知的障がい者への読書サポート活動を図書館で養成したボランティアとともに開始。3団体が利用。 	A 図書館の館内整理日を利用し、気兼ねなく知的障がい者が図書館を利用できる環境を作った。放課後等デイサービスにも利用が広がった。耳で楽しむ本の会は、開催場所や開催時間を工夫し参加者が増えた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・音訳ボランティア養成講座、音訳サービスの実施 ・宅配サービスの実施 ・知的障がい者のための代読サービスの実施 	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業・取組名称	活動内容	実績・成果	評価
図書館の運営と充実	図書館サービスや利便性の向上を図り、誰もが利用しやすい図書館運営を行う。	<p>市内スーパー、えん・くろす(2園)において、毎月2回のほか、市内イベント等で出張図書館を行い、1,165冊、延べ533人の利用があった。</p> <p>出張図書館事業を開始する。図書館外での貸出を行うことで、気軽に本に親しんでもらう環境を作る。</p>	<p>A</p> <p>民間事業者や、市役所担当課、自治会等に、出張図書館事業について実施協力を依頼し、開催場所を少しずつ増やした。利用者からは、身近な場所で気軽に本を借りられるため好評を得ている。</p>
子ども読書活動の充実	子どもの健やかな成長の糧となるよう、ブックスタート事業など子どもの読書活動を推進する。	<p>「おはなし会」4,047人、「絵本の会」1,650人参加。ブックスタート事業や、出前授業などを実施。生駒小学校においてボランティアと学校の協働でオータムフェスティバルを実施。ボランティアによる図書館託児事業「こあら」を本館、南、北分館にて実施し189人が利用。</p>	<p>A</p> <p>園・学校の見学や出前が再開され、おはなしや読み聞かせの機会が増えた。託児事業は、保護者、ボランティアから好評を得ている。</p>
読書活動ボランティアの育成と協働による事業推進	読書活動ボランティアを育成するとともに、同ボランティアと協働し、読書に触れる環境を整備する。	ボランティア養成講座として、音訳10回、学校図書館修理2回、代読サービスのステップアップ講習を実施。生駒市に関する新聞記事の切り抜きボランティアを新規で開始。	<p>S</p> <p>学校図書館修理ボランティアの講座修了生は、半年以上の実習を行い、スキルを身につけてもらってから各学校図書館で活躍していただいている。郷土資料として新聞記事のスクラップブックを作成することができ、資料の充実にもつながった。</p>

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

図書館から飛び出して貸出を行う出張図書館や、先進的な取組である知的障がい者への読書サポートサービス、様々な市民協働事業など多岐にわたった事業を行っているが、個人貸出冊数が伸び悩んでいる。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

本に関心のない人にも読書啓発を行うため、ソフト、ハードの両面から改善を行い、図書館に来館する機会を創出する。

< 参考データ >

図書館蔵書冊数等

(単位：冊、人)

	蔵書冊数	貸出冊数	貸出人数	利用券登録者数
平成30年度	644,138	1,285,801	422,029	55,510
令和元年度	647,236	1,340,657	387,103	52,535
令和2年度	647,638	1,094,768	317,867	49,710
令和3年度	649,712	1,263,753	358,627	47,161
令和4年度	646,210	1,195,065	352,645	44,357

【評価基準】
S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

3 歴史・伝統文化・芸術を通じた、より豊かなまちの実現

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		令和4年度の取組/設定目標		
『生駒市史』 編さん事業	『生駒市史』編さん事業は、昭和60年に最終巻を発刊し終えたが、その後30年間に行われた発掘調査や古文書調査等の新たな成果が蓄積されている。加えて、生駒市を取り巻く状況は大きく変化してきており、市制50周年を記念して新たな「生駒市史」を編さんする意義は大きい。優れた専門性を備えた市内在住研究者や学校関係者、ボランティアの参画により「生駒市史」の編さんを行う。	編さん委員会、5分科会開催 ・補充調査実施 ・ボランティアを活用した編さん作業継続 ・記念講演会 123人 ・いこま歴史キャンパス開催 4講座延べ166人 ・『史料集第1集』・ニューズレター発刊など	編さん委員会開催 ・補充調査 ・史料集1発刊 ・記念講演会 ・地域学習イベント ・ニューズレター発行	A 宝山寺文書ほか各分野の史資料調査を実施するとともに、編さん委員会、分科会、編集会議を開催し、各分野の方針等の情報を共有した。またボランティアの参画による史料の収集、翻刻等の編さん作業を実施した。また、調査研究の成果を地域学習イベント・講演会・ニューズレターなどを通じて行い、事業PRに努めた。また、生駒の近代郷土誌・風俗誌の全文翻刻を通じて近代生駒の生活や思想等にふれる刊行物を発刊した。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和4年度の取組/設定目標	
歴史・伝統文化の学びの場の提供と情報発信	市内に存在する有形・無形文化財の保存・活用、伝統文化に親しむ機会の拡充や継承を進めるほか、生駒ふるさとミュージアム等を拠点とした郷土学習の場の提供や歴史文化の発信を行う。あわせてデジタルミュージアムによる情報発信を行うことで、市民が容易に生駒の歴史や伝統文化に触れることができる環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとミュージアムにおける特別展・企画展、各種講座等の開催(年間来館者数7,618人) ・小学校への出前授業(6校) ・デジタルミュージアムの運営と周知(年間アクセス数25,473件) 	<p>ふるさとミュージアムを拠点に、本市の文化財や歴史にふれる展示や講座、講演会等を開催した。</p> <p>また、小学生を対象に昔のくらしやまちの移り変わりなどをテーマとした出前授業にも力を入れるなど、幅広い世代に本市の歴史文化を伝えることで、郷土愛の醸成につながった。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・市内小学校6年生への「茶道体験教室」の開催 ・ふるさとミュージアムにおける企画展等の開催 ・デジタルミュージアムの運営と周知 ・「鷹山家文書」等古文書活用事業の実施 	A

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和4年度の取組/設定目標	
市民との「協創」による「音楽のまち生駒」の発信	「市民みんなで創る音楽祭」など市民の企画提案によるコンサートの開催を通じて、市民が身近に様々なジャンルの音楽に親しめる機会を提供する。 また、吹奏楽を愛する市民により結成された「生駒市民吹奏楽団」の活動を支援するとともに、市内学校の吹奏楽部・バンド等との連携のもと、合同演奏会などの開催を通じてあらゆる世代の市民に吹奏楽や音楽の楽しさを提供・発信する。	<p>◎「市民みんなで創る音楽祭」</p> <p>提案団体 13団体 実施団体 10団体 来場者数 2,932人 出前授業 5校 参加者 652人</p> <p>◎市民吹奏楽団事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いこすいフェスタ2022」(6月12日開催) 来場者数 582人 ・「0才から楽しめるファミリーコンサート」(9月25日開催、2回公演) 来場者数 1,371人 ・「いこま吹奏楽の日」(3月4・5日開催) 来場者数 1,500人 <p>・「市民みんなで創る音楽祭」の開催 ・市民吹奏楽団の運営、事業開催 /「市民みんなで創る音楽祭」提案団体数：13団体</p>	<p>「市民みんなで創る音楽祭」は、新規4団体を含む13団体の企画提案を受け10公演を採択し、実施した。市内小中学校へのアウトリーチ公演の実施校数も5校に増加するなど、子どもたちへの音楽教育の充実にも貢献することができた。</p> <p>S 吹奏楽事業を含め、いずれの事業もコロナ禍の制限緩和に伴い来場者が大幅に増加し、多くの市民が音楽に親しむ機会や活動の成果発表の機会とすることで、「音楽のまち生駒」を市内外に発信することができた。</p>

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		設定目標		
生駒ふるさとミュージアム管理運営	市の歴史文化の普及のため、生駒ふるさとミュージアムの指定管理者と連携して、適切に管理運営する。	生駒ふるさとミュージアムの来館者数(年間):7,618人	生駒ふるさとミュージアムの来館者数(年間):8,000人	A ふるさとミュージアム指定管理者による特別展示等の開催により、初めての来館者を含む多数の観覧があり、本市の歴史文化の発信とともにふるさとミュージアムの認知度を高めることができた。 また、前年度に引き続き、夏休み期間中には「勾玉体験」に多数の来館があり、子どもだけでなく、子育て世代の来館者増にもつながった。
文化芸術事業	市民の文化芸術活動を活発化するため、成果発表会の場の提供や指定管理者の自主事業の実施、文化芸術団体との連携などを推進する。	生涯学習施設で行われる芸術文化活動の参加者数:15,605人	生涯学習施設で行われる芸術文化活動の参加者数:37,100人	A コロナ禍以前の水準には至らないものの、関係団体や指定管理者等と連携しながら積極的に事業実施に取り組み、昨年度を上回る参加者数を得た。
文化財保護と歴史文化の普及	市の歴史の普及を図り、郷土愛を醸成するとともに、市の貴重な文化財保護を行う。	歴史文化系講座聴講者数:1,454人	歴史文化系講座聴講者数:990人	A 本市の文化財や歴史をテーマにした企画展や特別展、各種講座や講演会を行うほか、市内小学校への出前授小業にも積極的に取り組み、幅広い世代の多くの市民に郷土の歴史文化の普及を進めることができた。
市史編さん活用事業「いこま歴史アーカイブ」	市史編さん作業で収集した資料のうち、書籍の基礎となる貴重かつ活用可能な資料を選択し、令和7年度以降『市史』を発刊公開して以降、史料を随時公開し、活用をはかる。	・史料の収集・撮影を行った。 ・編さん委員会で意見聴取、活用手法を検討した。	・史料の収集・撮影 ・編さん委員会での意見聴取、活用手法検討	A アーカイブに必要な基礎資料を集積し、編さん委員会に意見聴取を行うとともにアーカイブ構築のための実施体制、公開方針等を検討した。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

文化芸術や歴史文化に関する事業では前年度より多くの参加者を得ることができたが、参加者はシニア層が中心であり、子どもから働き盛り世代にも関心を持って参加してもらえるような内容や実施手法の工夫が必要である。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

引き続き魅力あるイベントの開催を通して市民が文化芸術に親しむ機会を増やすとともに、市史編さん事業における記念講演会や歴史キャンパス事業のほか、ふるさとミュージアムでは親子で郷土の歴史を学べる講座などにも新たに組み込むことで、より幅広い世代に本市の歴史文化を発信し、郷土愛を高める取組を進める。

<参考データ>

生駒ふるさとミュージアム来館者数

(単位：人、件)

	大人	子ども	合計	多目的室利用件数・人数	
平成30年度	6,215	3,084	9,299	352	6,525
令和元年度	5,828	1,706	7,534	278	4,072
令和2年度	4,683	1,617	6,300	152	2,555
令和3年度	5,230	3,309	8,539	339	5,039
令和4年度	5,217	2,401	7,618	306	5,153

文化芸術事業の開催状況

(単位：回、人)

	種別	令和4年度		令和3年度	
		延べ回数	参加者数	延べ回数	参加者数
市主催事業	市民文化祭等	17	10,438	16	6,669
文化芸術団体補助事業	コンサート等	3	697	1	65
指定管理者自主事業	コンサート等	14	4,470	12	3,528
	講座	309	9,185	247	3,948
合計		343	24,790	276	14,210

【評価基準】
S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

4 「健康」「生きがい」「仲間」「まち」をつくるスポーツの発展

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和4年度の取組/設定目標	
総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	誰もが身近な地域で気軽にスポーツ活動を行えるよう、市内の総合型地域スポーツクラブの発展を支援するとともに、新たなクラブの設立に向け、関係団体への情報提供や人材育成を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・広報掲載、チラシ配布等による各クラブの周知啓発活動支援 ・生駒市総合型地域スポーツクラブ連携会議の開催(1回) /会員数:981人 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・各クラブに対する活動支援 ・新規クラブ設立準備支援 /市内クラブの会員数:950人	新型コロナウイルスの影響があったものの、各クラブが実施する事業等についての周知啓発や、各クラブ間の情報交換を行うことにより、会員数を増加させることに繋がった。 A また、学校部活動の地域移行に伴う県からのモデル事業を受託するとともに、新たな地域クラブ活動の推進を見据え、市内総合型クラブが実施主体となる仕組みづくりを行った。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和4年度の取組/設定目標	
みんなのスポーツ推進事業	子どもから高齢者、障がい者などあらゆる市民が、スポーツに親しみ、楽しむ機会の充実を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを始めるきっかけやスポーツに親しんでもらえる1日とするため「いこまスポーツの日」(3/21)を開催 参加者数:811人 ・障がい者スポーツ用品の購入及び活用(eスポーツ用品) ・障がい者対象スポーツ事業:4回開催 ※上記事業の中で、車いすバスケットボール体験会を2回実施 <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活で頻度の高い“跳ねる”“投げる”“蹴る”の3つの動きを、作業療法士、理学療法士、スポーツ指導者により小集団で実施する障がい児用運動プログラムモデル事業:3回 	「いこまスポーツの日」の開催にあたり、市スポーツ施設指定管理者や市内総合型地域スポーツ等と連携したことで、バルセロナアカデミー奈良校によるサッカー教室、リレーマラソンやeスポーツ体験会、パラリンピックメダリストによる陸上教室、芝生でピラティスの開催などを実施し、多くの市民の参加を促すことができた。 S また、コロナ禍で延期となっていた障がい児用運動プログラムをモデル事業として実施し、参加者から高い評価を得ることができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・いこまスポーツの日の開催(1回) ・障がい者対象スポーツ事業の開催(4回) ・障がい児用運動プログラムモデルの実施 ・車いすバスケットボール体験会の実施 ※企業版ふるさと納税を活用 /みんなのスポーツ推進事業の開催:5回/年	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		令和4年度の取組/設定目標	
トップアスリート連携事業	スポーツに憧れや夢を抱けるように、メダリストやトップアスリートを招き、スポーツ教室や講演会を開催し、有名スポーツ選手と触れ合う機会をつくります。	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックメダリストによるボッチャ教室(20人参加)や、陸上教室(65人参加「いこまスポーツの日」を含む)の実施 ・スポーツ教室や講演会の実施 /アスリート連携事業の実施:年5回	A 新型コロナウイルスの影響により、トレイルランニング教室、ちびっこ相撲体験会は中止となったが、パラリンピックメダリストによるボッチャ教室や陸上教室を開催し、世界トップレベルのアスリートと触れ合う機会を創出した。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業・取組名称	活動内容	実績・成果	評価
健康ウォーキング等の推進	生駒山スカイウォークやチャリロゲいまなど、誰もが気軽に参加でき、スポーツを始めるきっかけとなるイベントを開催する。	・生駒山スカイウォーク：約400人 ・チャリロゲいま：65人 生駒山スカイウォーク：1,200人 チャリロゲいま：150人	A 生駒山スカイウォーク、チャリロゲいま共に、新型コロナウイルス感染対策を講じ実施した。
子ども体力向上事業の実施	子どもの体力向上を目指すため、子どもを対象としたスポーツイベントを開催する。	子どもを対象としたイベント・事業の参加者数：1,813人 子どもを対象としたイベント・事業の参加者数：2,300人	A 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった事業もあるが、感染対策を講じて水泳競技大会や、IKOMAマラソンチャンピオンシップなどの種目別競技会を開催し、子どもたちのスポーツ活動の発表の機会とした。
スポーツ、レクリエーション活動	様々なニーズに合ったイベント、講座等を開催し、誰もがスポーツに触れることができる環境を整備する。	市内各種スポーツイベントなどの参加者数：12,343人 市内各種スポーツイベントなどの参加者数：20,000人以上	A 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じた上で、スポーツ推進委員や(一財)生駒市スポーツ協会と連携し、市民体育大会やファミリースポーツの集い、スポーツ教室などを開催した。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
社会体育施設 の管理運営	市民のスポーツ活動の拠点となる社会体育施設を適切に管理運営し、スポーツ環境の整備を図る。	市内体育施設の利用者数：796,568人 市内体育施設の利用者数：1,000,000人	A 各施設の整備工事や新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため利用制限などにより、利用者数は減少しているが、指定管理者と連携し、施設利用者の安心安全の確保や施設の環境改善に努めた。
スポーツ推進審議会の 開催、スポーツ推進委員 の運営	審議会を通じて専門家や市民から市のスポーツ施策に関する意見を聴くとともに、地域住民であるスポーツ推進委員と協働してスポーツの普及を図る。	スポーツ推進審議会開催回数：3回 スポーツ推進委員会会議：2回 研修会等：8回 実技指導：11回 その他地域での実技指導	A スポーツ推進審議会では、「生駒市スポーツ推進計画【改訂版】」の各施策の進捗状況や検証等を行うとともに、「第2期生駒市スポーツ推進計画」策定に伴う、市民意識調査等を実施した。 スポーツ推進委員では、多くの事業が新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったが、ファミリースポーツの日等は感染対策を講じて事業を実施した。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

感染対策を講じた上で、各スポーツ事業を実施することができ、市民がスポーツに夢や憧れを抱ける機会を創出することができた。
 また、コロナ禍の影響で延期となっていた「障がい児用運動プログラム」をモデル事業ではあるが実施できたことは、障がい者のスポーツ活動支援の新たな道筋となったが、継続した取り組みとできるよう関係団体との更なる連携や地域の協力が必要と感じている。
 また、「学校部活動の地域移行」については、市スポーツ協会や市内総合型地域スポーツクラブと連携し、モデル事業を実施したことで、国の方針も鑑みながら一定の方向性を定めることができたが、今後も国や県などとの調整を図りながら進めていく必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

教育大綱アクションプラン掲載事業である「総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業」や「みんなのスポーツ推進事業」については、市民ニーズや参加者等の意見を取り入れながら引き続き取り組みを推進する。
 また、休日の学校部活動の地域移行を見据え、将来にわたりスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保するため「新たな地域クラブ」を設立し、生徒や児童にとって持続可能で多様な環境を構築する。

<参考データ>

スポーツ、レクリエーション活動の実績

(単位：人)

事業名	令和4年度	令和3年度	事業名	令和4年度	令和3年度
体育大会	4,507	960	学校体育施設開放	2,782	1,676
ファミリースポーツの集い	34	134	生駒ふれあい市民マラソン	中止	中止
小学生長距離走記録会	297	300	生駒山スカイウォーク	400	中止
スポーツ教室	4,570	2,065	チャリロゲいこま	65	中止
体育館無料開放	1,273	745			

社会体育施設の利用実績

(単位：人)

施設名	令和4年度	令和3年度	施設名	令和4年度	令和3年度
生駒北スポーツセンター	123,835	121,846	滝寺公園	136,804	122,835
イモ山公園	52,460	60,601	むかいやま公園	38,742	40,228
北大和	83,179	114,764	小平尾南	35,256	44,230
総合公園	115,574	124,526	井出山	189,453	173,501
山麓テニス	21,265	24,460	合計	796,568	826,991

点検及び評価に関する意見

(1) 教育委員会の活動状況に対する意見

生駒市が、平成28年6月に教育・学術及び文化の振興に関する総合的な施策の生駒市教育大綱（第1次）を策定してから6年が経過した。令和2年6月より「第2次生駒市教育大綱」に基づく事業が推進機関4年としてスタートし、本年度は3回目の点検評価となっている。

毎年「アクションプラン」を策定・更新することで教育理念の具現化を図ってきた。市長マニフェストと連動し「PDCA」が年度ごとに活かされており、発展的かつ一貫性をもった取組が進められ成果につながっている。長期的展望に立って先進的な改革を目指し積極的に取り組まれている点を評価している。

しかし、新型コロナウイルス感染症は未だ終息せず、子育て・就学前教育の場、学校教育の場、生涯学習の場において影響を与えている。このような状況下において、事業の中止や変更を行わざるを得なかったものもあり、取組内容を重視した評価が行われた。

一方、令和5年5月8日から、新型コロナウイルス感染症の位置づけが、「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」から「5類感染症」になり、法律に基づき行政が様々な要請・関与をしていく仕組みから、個人の選択を尊重し、国民の自主的な取組をベースとした対応に変わった。

先き行き不透明な状況下にある中、これからも実績をしっかりと点検、評価し、改らためるべきところを見極め、「with コロナ」から「after コロナ」への移行を見据えて市を挙げて、今後とも、臨機応変に対応していただきたい。

(2) 生駒市教育大綱に基づく施策・事業に対する意見

基本方針1 子育てを楽しめる地域づくり

1 保護者支援の場・コミュニティづくり

コロナ禍における活動自粛や在宅ワークの増加等、様々な社会構造の変化により、求められる形も変わってきたが、それらに対応してボランティアを中心に交流会を実施し、地域で支えあう形が更に構築されていることは評価に値する。益々事業の必要性が増すと思われる。これからも更にファミリー・サポート事業の周知を図り、地域で支え合う子育てのコミュニティ構築を期待する。とりわけ、パパセミナー等夫婦で協力して子育てをしていく支援事業の発展を今後も期待する。

「待機児童解消に向けた取組の推進」についても、小規模保育所の開園、保育人材の確保をはじめ、保育コンシェルジュによる出前相談会や、コロナ禍にあって工夫しサポート体制が浸透し、令和5年4月1日入所における待機児童数0名となったことは評価に値する。令和6年までの待機児童解消に向け、今後も取組の強化をお願いしたい。

妊婦期から子育て期にわたり切れ目のない子育て支援事業が展開されていることは、評価に値する。また、民間学童保育所の開設にも更に取組まれ今後を期待している。子育て世代の保護者が孤立せず、虐待の未然防止、早期発見も含めて子どもたちが安心して過ごせるよう、家庭・地域・学校・事業者・行政が連携し、地域全体で見守り育み、健全な成長に向けて今後とも様々な家庭に応じた支援をお願いしたい。

2 「遊び」を「学び」につなぐ就学前教育の充実

コロナ禍にあっても、できる範囲での交流や保幼小の接続連携事業も持てたとと思われる。写真・動画・リーフレットを活用し、「遊び」を「学び」につなぐ幼児教育の可視化を保護者にも示したことは評価できる。今のコロナ禍では困難な点

も多くあるが、世代間交流や事業者との連携等、「協働」による楽しく充実した取組を今後も期待する。

保護者の働き方の変化も踏まえ、保護者のニーズへの対応が求められる。国及び県からの補助金の確保に努めていただき、どんな状況下でも、きめ細やかな対応をお願いしたい。

基本方針 2 21世紀を生き抜くしなやかでたくましい人づくり

1 「地域に開かれ、地域とともにある学校づくり」の推進

本市では以前から「地域ぐるみの児童生徒健全育成事業」等、地域の実情に応じ特色ある教育活動が地域と連携してなされてきた。それらを基に発展させた「学校運営協議会」を市内全小中学校に設置し、本格的にコミュニティ・スクールが始動していることは評価できる。

現状として学校や家庭だけでは十分とは言えない教育や子育てを、それぞれの長所を生かし合い、欠点を補う中で、学校・保護者・地域住民の協働を通して「地域とともにある学校の実現」に向け、学校間の情報を共有し、さらに充実したコミュニティ・スクールの取組を期待している。また、本年度実施した「いこま教育フォーラム」にも期待したい。

2 ICT機器を活用した新たな学びの創出と時代に応じた環境整備

国のGIGAスクール構想をはじめ令和の日本型教育の実施事業に合わせ、生駒市でも今まで積み重ねてきた実績を生かし進められている。1人1台のパソコン端末が整備され、全小中学校にICT支援員を配置することで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による新しい学びの形をいこまモデルとして提案し、日常的な指導において日々改善を図り効果が定着するよう進められていることに期待している。AI型ドリルを用いた結果、「勉強が前よりよく分かる」と答

えた児童生徒が半数を超えたことは評価できる。

オンライン学習や協働学習で ICT 機器を活用し、学校だけでなく学校と家庭を結ぶツールとして利用していくこと等、新たな学びの環境整備とともに、教員の ICT 活用能力向上についてオンラインでの研修等、向上がなされているが、更に期待している。子どもたちに情報伝達の便利さとともに ICT 活用マナーの育成指導もお願いしたい。

全中学校の校舎のトイレ洋式化が完了し、学校環境の改善を図れたことは、評価できる。学校給食センターの整備も、工期を延長する事となったが、給食の提供を中止することなく、工事を完了したことは評価したい。

3 多様性を認める柔軟性とやさしい心の育成

「自殺対策推進事業」「ICT 機器を安全に活用するための情報モラル教育の推進」が、昨年度に引き続き充実した内容で示された。いじめ根絶に向け、すべての組織が自らの課題と捉え主体的に取り組がなされていると思うが、コロナ禍が続いている中で、子どもたちの様子も察知しづらくなってくる。全国的に SNS を利用したいじめをはじめ悲しい事件の報道もある。そんな状況下でこの二つの取組みを喫緊の課題として新たに取り組まれ、研修も深められつつあることを評価し更なる取組に期待する。

今後も教員が児童生徒の出す信号に素早く対応するためにも、各校園に「スクールカウンセラー」「スクールソーシャルワーカー」「スクールアドバイザー」等が派遣され、「カウンセリング」や「教育相談」の充実が図られ、今後もいじめ防止に向けた学校づくりの推進と更なる充実に向けた取組をお願いしたい。

また、特別教育支援体制として、「教育相談室」「適応指導教室」「言葉の教室・通級指導エル」等も成果を上げていて評価したい。近年、特別な支援を要する子どもたちが増加傾向にある。登校しにくい児童に対し、適応指導教室を開設したこと

は評価できる。よりきめ細かな特別な支援に対し、今後も更なる体制の充実をお願いしたい。

4 主体的に学び、挑戦を続けるたくましい心の育成

「主体的に行動する力」「課題を見つけ、解決する力」「グローバル時代に対応する語学力」「他者と協働するためのコミュニケーション能力」を育成し、これからの社会の中においても、生き抜く力を身につけることができる学びの環境を充実していくことが求められている。

コロナ禍にあって、様々な活動が制約を受ける状況下である。子どもたちが「得意なこと」や「好きなこと」を通じて、将来の「自立」を実感できる実体験を増やすことで興味ある分野への好奇心が促され、失敗しながらもチャレンジを続ける逆境に負けないたくましい心身が育成される。

自分の夢を持ち、自己有用感を高めることができる心の教育と健やかな身体を育成する取組として「社会に開かれた学校教育推進事業」が掲げられ、「あこがれいこまびと講演事業」や、「生駒こどもチャレンジ補助事業」「チャレンジ！やさしくたくましいいこまっこキャンプ」等にも引き続き取り組んでいただきたい。全国的に問題となっている、中学校において専門的な技術指導者の不在、また部活動での教員への負担等について、地域指導員の派遣の取り組みを進めてきたことは、評価に価する。地域指導員の確保という課題はあるものの、今後の取組に期待する。

理科離れが進む中、奈良先端科学技術大学院大学と連携した授業も以前から行われているが、市にある連携できる機関を利用し今後益々児童生徒たちが興味関心を高めることを期待する。また、ICT教育アワードでの経済産業大臣賞の受賞や、小学生がつくる地域のデジタル図鑑「にしよロボくん」プロジェクトが、キャリア教育推進連携表彰で優秀賞を受賞したことは、今後の励みとなり、興味関心が高まることに期待する。

5 「楽しい授業づくり」のための教職員の育成と環境整備

教職員の働き方改革で、「教職員が生き生きと子どもと向き合う時間創造プログラムの推進」が着実に推進されることにより、21世紀を生き抜く力の育成に向け、「わかる授業」「楽しい授業」から「学びの喜び」を子どもたちに感じさせることが更にできると思われる。

「スクールサポートスタッフ」の配置により、教職員の勤務時間の削減ができ、教職員が授業や教材研究に集中し、ゆとりをもって子どもたちと向き合う時間の拡充が今まで以上に図れると思われる。特に学校現場は多忙を極め、人的措置は必要不可欠なものである。市内すべての学校に配置されることをお願いしたい。講師不足対策として講師等就学説明会を実施し、50数名の登録を得たことは評価できる。

新型コロナウイルス感染防止策をはじめ、子どもたちの心身の変調等、益々、教職員は新たな重要な任務を担ってくる。コロナ禍により、行事の見直しや削減、精選も余儀なくされている。この機会に立ち止まり、子どもたちのために、何を大切にしていくなか見直しの機会としていただくとともに、児童・生徒の成長、学習能力向上のために教員は更に自己研修に努めていただきたい。

今後も想定できない状況も考えられる。現場と行政が連携し素早い的確な対応と行政指導をお願いしたい。

基本方針3 すべてのライフステージで、楽しみながら学び、地域とつながる機会づくり

1 すべての人が楽しく、安心して成長し、活躍できる機会の創出

「IKOMA サマーセミナー」は、子どもから大人まで幅広い世代が学びたいことを気軽に学べ、様々な特技や専門知識等を持った市民自身が先生となって開催さ

れる、市民の学びと活躍の場である。実行委員会が主体となり、3年ぶりに対面式でサマーセミナーを開催し、多くの参加者があったことは評価できる。また、実行委員等からの周知や声掛けにより、半数近くの14名が初めて先生を務めるなど、新たな人材の発掘につながったことも評価したい。サマーセミナーにかかわる人材の発掘・拡充と、サマーセミナーの充実と円滑な実施にむけ、今後も更に工夫・検討されることを期待したい。

学びと交流の社会見学「まちミル」は、市内の気になる場所を訪れ出会った人たちと交流しながら、生駒のヒト・モノ・コトと出会い、五感を使って体感し学ぶフィールドワークであり、「降りない駅で降りてみる」、「新しいお寺のカタチ」、「地域でつくる農の魅力を満喫」、「体験『好き』を見つける」等を開催し、市民の学びと交流、地域活動のきっかけの場を提供できたことは評価できる。また、これからの時代に対応する力を身につけるため、わたしたちが「今、知りたいこと」や「より豊かに暮らすために役立つこと」を学ぶ場、ischool（アイスクール）を立ち上げ、オープニングイベントでミュージシャンの相川七瀬さんや宇宙飛行士・油井亀美也さんをゲストに招き、子育て世代の関心やニーズを踏まえた講座を企画開催したことは高く評価し、今後も期待したい。

高齢社会において、高齢者の豊富な経験と知識・技能が生かされ、多くの高齢者が活躍できるまちづくりが望まれる。「いこま寿大学」の新たな仕組みを構築したことや「ボランティア講座」の参加者の多くに社会貢献活動の参加を促せたこと、同大学卒業生等の有志による「寿生駒連絡協議会（気らくネット）」と小中学校との活動につなげる等、地域での活躍の場を広げる様々な取組は評価したい。

不登校や学校を卒業した若者のニートやひきこもり等、困難を抱える子どもや若者を支援する事業として、「生駒市子ども・若者支援ネットワーク」を運営し、子ども・若者総合相談窓口「ユースネットいこま」を拠点に相談支援をした。対面を中心にオンラインやメール等も活用した相談を実施し当事者の状況に応じた支

援を行い、多くの進路決定につながったことは評価できる。新規相談者数が相談者数の過半数となるなど、「ユースネットいこま」の周知活動を広く行った成果も評価したい。

「ユニバーサルキャンプ in 生駒」は、年齢や性別、障がいの有無や国籍・文化等、個々の違いや多様性を認め合う機会を提供する事業として計画・実施してきたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため宿泊行事の開催は昨年度に引き続き本年度も中止した。異文化交流に関して対面や交流により得られる効果を図る事業の実施について、今後、内容や方法について更なる工夫・検討を期待したい。

2 人と本、人と人をつなぎ、まちづくりの拠点となる可能性に満ちた図書館づくり

子どもの読書活動充実に向け、家庭・地域・学校の連携づくりの取組として本年度は「トライ！ 生駒子ども読書会議」で読書を通じてコミュニケーションを図り家族の絆を作る取組である「家読」の推進に取り組み、各校園での取組を発表し意見交換をしたことは評価できる。また、子どもの健やかな成長の糧となるよう、「絵本の会」「おはなし会」等のブックスタート事業を実施する等の充実した取組が実施されていることや、おはなし会や読み聞かせの機会が増えたことは評価したい。

図書館は人と本の出会いの場であり、本を通して人と人のふれあいを深める場の役割を担っている。第8回「ビブリオバトル全国大会 in 生駒」を、本年度も予選はオンライン配信を活用し、決勝戦はコロナ対策を講じ図書会館で実施して、年齢や地域の枠を超えて語り合う場を開催したことは評価に値する。

市民との連携や「協創」のもと、新たな文化を創造する「まちづくりのプラットフォーム」となる図書館を目指し、「本棚のWA」、「未在亭」、「朝活読得会」、「まちかど図書室」等の取組を実施していることは評価できる。人と本、人と人をつな

ぐ図書館づくりを今後も期待している。

図書館の運営と充実のため、サービスや利便性の向上を図り、誰もが利用しやすい運営が必要である。社会全体として読書離れが進んでいる中、民間事業者や自治会等に出張図書館開催の協力依頼をし、市内イベント等において館外での貸出を開始する等、利用者が身近な場所で気軽に本を借りられる機会を増やしていることは評価できる。

読書活動ボランティア養成講座として、音訳講座、学校図書修理講座、代読サービスステップ講座を計画的に実施した。学校図書修理ボランティアは、市内各学校図書館で活躍していることは評価できる。

また、音訳ボランティアによる録音図書作成や対面音訳活動、代読サービスボランティアによる知的障がい者への読書サポート活動や、図書の宅配サービス等、障がいや高齢等の理由で図書館利用に困難を感じている人が、気軽に図書館を利用しやすくする図書館読書バリアフリー活動は評価できる。

読書活動ボランティアを育成し、同ボランティアと協働し図書に触れる機会を増やす取組は評価し、今後も活発な活動を期待したい。

3 歴史・伝統文化・芸術を通じた、より豊かなまちの実現

市民が興味・関心や親しみを持って、地域に根付いた歴史や伝統文化・芸術に触れることは、より豊かなまちづくりにとって意義深いと考える。

前回の「生駒市史」発刊後30年を経過し、その間に新たな資料・成果が蓄積され、生駒市を取り巻く状況も大きく変化してきており、市制50周年を記念した新たな「生駒市史」の編さんは、生駒市への愛着を深め、将来の生駒市を考えていくための事業として期待している。

生駒ふるさとミュージアムにおける特別展・企画展、各種講座等の開催や、小学校への出前授業の実施により、市民が身近に生駒の歴史文化に触れて学ぶ機会を

提供しており、評価できる。さらに、生駒市デジタルミュージアムの運営と周知を行い、成果を上げている。市民の郷土愛をはぐくむ生駒ミュージアムの様々な活動に今後も期待している。

「音楽のまち生駒」の発信では、市民の企画提案による『市民みんなで創る音楽祭』や『生駒市民吹奏楽団』の活動として「いこすいフェスタ2022」、「0才から楽しめるファミリーコンサート」、「いこま吹奏楽の日」等を開催した。コロナ禍の制限緩和に伴い来場者が増え、市民が生きた音楽にふれて親しむ機会や、活動の成果を発表する機会を提供し、「音楽のまち生駒」を市内外に発信したことは評価に値し、今後も期待したい。

文化芸術関係の事業や公演に、幅広い年齢層の市民の参加を促せるような企画や開催方法の工夫・検討をお願いしたい。

4 「健康」「生きがい」「仲間」「まち」をつくるスポーツの発展

生駒市では、スポーツを通じて、健康づくり、生きがいづくり、仲間づくり、そして豊かなまちづくりを目指し、以前から様々な形でスポーツ活動事業を推進・支援してきた。

統合型地域スポーツクラブは「多種目・多世代」で「いつでも・どこでも・誰でも」が参加できるスポーツ環境の在り方として推進されてきた。「学校部活動の地域移行」について市スポーツ協会や市内統合型スポーツクラブと連携し、外部指導者を派遣するなど、新たな地域クラブ活動の推進を見据え市内統合型スポーツクラブが実施主体となる仕組みづくりを行ったことは評価し、今後の活動に期待している。

みんなのスポーツ推進事業は、年齢や障がいの有無に関係なくすべての市民が、スポーツに親しみ、楽しむ機会の充実を図ることを目的としている。事業の一つである「いこまスポーツの日」には、市スポーツ施設指定管理者や市内統合型スポー

ツクラブとの連携や取組の実施により、サッカー教室、リレーマラソンや e スポーツ体験会、パラリンピックメダリストによる陸上教室、芝生でのピラティス等を開催し、多くの市民の参加があったことは評価できる。また、障がい児用運動プログラムモデル事業を実施したことも評価できる。今後も期待している。

トップアスリート連携事業は、メダリストやトップアスリートを招き、スポーツ教室や講演会を開催し、すべての市民に憧れや夢を与える機会であり、有名スポーツ選手と触れ合うことが大きな影響を与えると考えられる。パラリンピックメダリストによるボッチャ教室や陸上教室を開催し、メダリスト等と連携し事業を実施したことは高く評価できる。今後もこの魅力的な事業の継続をお願いしたい。

健康ウォーキング等の推進として、昨年度はコロナ禍のため中止したが、本年度は、コロナウィルス感染症対策を講じた上で、「生駒山スカイウォーク」と「チャリロゲいこま」を実施したのは評価できる。

コロナ禍のため中止せざるを得なかった事業もあるが、感染拡大防止対策を講じた上で各スポーツ事業を計画・実施し、市民誰もが気軽にスポーツに取り組み、夢や憧れを抱ける機会を提供していることは高く評価できる。

令和 5 年 8 月 8 日

生駒市教育委員会活動点検評価委員 山 中 和 幸

生駒市教育委員会活動点検評価委員 十文字 良 明